

1 研究活動の概要

本センターでは「岩手県農業試験研究推進構想」(平成12年3月策定。以下「推進構想」と言う。)に基づき、バイオテクノロジー等を利用した商品性の高い独自品種の開発や胚移植技術等を利用した家畜改良国際化に対応できる超省力、低コスト生産技術の開発
自動化、システム化等先端技術を利用した革新的生産技術の開発
環境保全に配慮し、生態系を活用した持続型生産管理技術体系の確立
地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立
中山間地域の資源を生かした地域活性化手法の開発
農村地域の多面的機能に配慮した農業農村基盤の整備、管理技術の開発
栽培・飼養、経営、販売等各種管理システムを取り入れた新しい「総合農業情報システム」の確立
など、本県の立地特性を生かしながら、新たな国際環境に対応し、持続的な展開が可能となる本県の農業を構築するため、時代を先取りした試験研究を進めることとしている。

平成14年度においては、農業の高度化、多様化するニーズに対応した試験研究の推進を始め、効果的・効率的な試験研究の実施を図るため、試験研究課題に係る評価制度を導入・実施した。また、大学等他研究機関との連携など「研究業務の効率的推進」、各種研修や資格取得等の「研究活動の活発化」、普及組織との連携強化や農業情報システムの効果的運営など「研究成果の迅速な提供・利用」、参観デーや広報活動など「試験研究に対する県民の理解増進」、海外研修員の受け入れや専門家派遣による「国際協力の推進」に努めてきた。

2 研究室の動き

(1) 企画経営情報部

企画情報室

平成14年度に導入した試験評価制度の運用にあたっての具体的な実施手法や評価方法に係る各種調整を行った。また、評価研究に係る各種企画調整(所内組織間連絡調整、関係機関連絡調整、試験研究課題調整等)及びセンターに関する広報及び情報システムの効果的な運営に努めた。

企画調整にあつては、所内諸会議(企画運営会議、全体会議等)や委員会(研究報告等企画編集委員会等)等の運営、関係機関(国、県及び関係団体)との連絡調整(推進会議等)を行った。

広報関係では、広報誌「トライアングル」の発刊、参観デー(本部・畜産・県北)、現地ふれあい農業研究センター(花巻、二戸地方振興局管内)、科学技術週間行事としての春季一般公開、一日子供農業研究員の開催及び「研究レポート」の発行等に取り組んだ。また、公開セミナーは「産官学連携について」(岩手大学地域共同研究センター助教授 小山 康氏)、「エコファーマー制度と県の取り組みについて」(県農業普及技術課技術副主幹兼生産環境係長 鈴木 敏雄氏)、「先進事例発表」(JAいわい東トマト部会長 小野寺 正幸氏、JAいわて中央営農販売部指導流通課 横沢 勤氏)、「粗飼料生産調整作業における新しい技術体系」(生物系特定産業技術研究機構主任研究員志藤 博克氏)により、本センター及び畜産研究所、県北農業研究所を会場に実施した。

また、農業研究センター発足後5カ年を経過したことから、発足後から現在までの歩みや、現在の試験研究の推進概要及び研究成果の普及状況等をまとめた「岩手県農業研究センター設立後の軌跡」を発刊した。

農業経営研究室

生産性の高い経営方式の確立方策、担い手の育成方策、中山間地域活性化、県産農産物の販売戦略及び開発技術の経営評価等に関する研究を実施している。

生産性の高い経営方式の確立方策では、黒毛和種放牧子牛に対する肥育農家のアンケート調査分析から、肥育農家の過半数は放牧経験を長所と評価し、今後も購入したいとしていることなどが明らかとなり、子牛放牧の促進につながる基礎資料を提示した。

担い手の育成方策では、野菜作を対象とした労力支援事業(無料職業紹介)に取り組んでいる県内8農協の聞き取り調査結果から、野菜農家の支援対策として事業活用上のメリットや課題を提示した。

中山間地域活性化に関する研究では、中山間地域に適する宿根草・花木の実需者ニーズに対応した生産販売の必要性を提示した。また、特産品づくりのキーポイントとしては、確実に売れる販路の開拓や実証・イメージづくりで商品情報を伝えるなどの販売対策を優先して実施することが重要であることを明らかにした。さらに、中山間地域等直接支払制度を活用している先進的な集落類型別の活動の特徴を明らかにした。

県産農産物の販売戦略に関する研究では、葉とらずリンゴの仕入れ(購入)に関する重要視点が仲卸業者、量販店仕入担当者、消費者の段階で異なることから、内部品質情報を細分化し、実需者別に提示すること、卸売市場に対しては「外観よりも内部品質保証」の情報を定着させる販売展開が肝要であることを提示した。また、開発技術の評価に関する研究では、水稲湛水直播栽培の労働配分と所得形成から評価した適正導入割合を提示した。

(2) 農産部

水田作研究室

当研究室では、水稻の品種選定、直播を中心とした省力・低コスト栽培技術確立、作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術、雑草防除に関する研究及び水稻原種・原々種の生産業務に取り組んでいる。

奨励品種決定調査では、「岩手 60 号」「岩手 63 号」「ふ系糯 196 号」「岩南糯 30 号」を継続検討とし、予備調査で有望と認められた「岩手 67 号」「岩手 68 号」「岩手 69 号」「岩南 28 号」「奥羽 381 号」を、平成 15 年から新たに本調査に供することとした。

平成 14 年は台風被害等気象変動が大きかったが、県産米は「ひとめぼれ」が 9 年連続で穀物検定協会の“特 A”評価を、オリジナル品種「いわてっこ」は前年に続き“A”の評価を得た。これら県産米の良質・安定生産技術確立のため、平成 14 年産米の作柄成立要因（作況指数 100、一等米比率全国 2 位）の解析、および 7 月の台風 6 号の大雨の冠水によって発生した葉枯現象を中心とした被害の解析を行った。産米の品質評価向上技術としては、新品種「もち美人」の栽培法をとりまとめるとともに「食味改善診断システム」については継続して検討した。また、より客観的な刈取時期の判定のため「初クロロフィル含量に着目した刈り取り適期診断技術の開発」に着手した。

雑草防除関係では、移植栽培用として 4 剤（初期剤 1 剤、初期一発剤 1 剤、初・中期一発剤 2 剤）、湛水直播栽培用として 4 剤（初期一発剤 2 剤、初・中期一発剤 2 剤）を県防除基準に採用した。また、水田雑草の最小限防除法については、湛水深の違いおよび代掻き時期の違いによる水田雑草の発生様相についてとりまとめた。

省力・低コスト技術として期待される直播栽培技術については、「代かき同時打ち込み点播機を用いた水稻湛水直播栽培法」として取りまとめた。また、水田農業確立の一環として WCS 用イネの生産技術について検討した。

水稻原々種は 7 品種(61 系統)320kg、原種はうち 4 品種 19,880kg、酒造好適米 2 品種 1,040kg、もち 2 品種 3,130kg を生産した。また、優良種子生産のため、発芽能力の検定法及び浸種条件（水温・浸種期間）について継続検討した。

水稻育種研究室

生産力検定試験において 44 組合せ 75 系統を供試し、33 組合せ 41 系統を選抜した。また、生産力検定と各種特性検定試験の結果から、岩手 70 号（極早生・良食味）、岩手 71 号（中生の早・穂いもち圃場抵抗性「やや強」・耐冷性「極強」・良食味）、岩手 72 号（晩生の中・耐倒伏性「やや強」・良質・良食味）の主食用 3 系統を有望と認め、地方番号を付し、平成 15 年度奨励品種決定調査のための新配布系統とした。

直播生産力検定試験で直播適性を有すると思われる 22 系統を検討し、岩 646（早生・多収・良質）、岩 653（中生・多収・良質）、岩手 68 号（中生・多収・良質）の 3 系統が有望と認められた。

新規需要及び新形質米の育成試験では、低アミロ - ス系統として Y187（中生・耐病性強）、Y190（晩生・多収）、Y191（中生・多収）の 3 系統を選抜、また、有色素米系統の岩紫 678（中生・紫黒米）を有望と評価して、次年度の生産力検定試験で継続検討する予定である。

育種技術の効率化に資する目的で平成 13～14 年に取り組んだ課題「分子マ - カ - を用いた岩手県水稻奨励品種の識別技術の確立」において、イネの葉を用いて、本県奨励品種 17 品種の全てについて識別が可能であることを明らかにし、研究成果として取りまとめた。

委託試験では、京都大学を中心に取り組まれている「圃場生産インタ - フェ - ス型シミュレ - タの開発」の課題の中で、多地点品種比較試験を分担し、供試 11 品種の寒冷地における生育特性データを収集した。

応用生物工学研究室

当研究室は、1．遺伝子組換え作物の特性調査、2．地域遺伝資源の利用、3．革新技術支援の 3 つを柱に研究を実施している。

1．遺伝子組換え作物の特性調査：生工研で育成した組換え水稻やリンゴを対象に、耐病性検定手法の確立や接種検定を実施している。水稻では閉鎖系温室内における検定対象病害であるいもち病の安定した誘発技術と、接種技術について検討中である。リンゴでは、耐病性遺伝子導入リンゴの耐病性検定において、品種による斑点落葉病の抵抗力の低下が明らかとなり、成果として取りまとめた。

2．地域遺伝資源の利用：主に増殖技術の開発を内容とするこの分野では、リンドウ F1 品種の採種用親株の増殖に関して、エゾリンドウの越冬芽を輪切りにした増殖技術を開発し、成果として取りまとめ、採種用親株のほぼ全系統での増殖が可能となった。今後はこれらの均一性について検討し、実用的な増殖システムを確立する。また、本県育成のスターチス「アイスター」シリーズの種苗増殖については、その増殖システムの低コスト化に向けた取り組みを実施中である。農業新技術現地実用化（21 世紀型）で取り組んでいるサトイモの産地強化試験では、北上市の地域特産作物である「二子芋」を材料にして、培養苗・培養苗由来の種芋を用いて慣行栽培との比較検討を行い、早掘りの可能性や芋の形状、収量性など培養法を利用した栽培特性について調査し、興味深い結果を得ている。

3. 革新技術支援：効率的な育種法を展開する上で、主要な形質に関係する遺伝子の有無を早期に判別する技術は特に重要であり、水稲ではいもち病真性抵抗性遺伝子 *Pii* に連鎖する DNA マーカーを作出し、平成 11 年の *Pik* に続く成果として取りまとめた。また、DNA マーカーを利用した解析法を効率的に行う手法についても成果として取りまとめた。

生産工学研究室

水稲の省力軽労化研究として、「水耕ロングマット育苗・移植技術」について平成 11 年度から本年度まで地域基幹研究として(独)農業技術研究機構中央農業総合研究センターを中心に茨城・長野・埼玉の農業試験研究機関と共同で取り組んできた。育苗移植技術、軽労効果及び北上市などの農家の本田での実証試験等を実施し、これまでの研究を成果として取りまとめた。

省力低コスト研究の一つである「水稲直播研究」については、播種ロールに従来の播種穴 3 カ所に加え新たに 3 カ所を開けて改良することによって、播種量の確保と作業性向上効果が図られることについて成果として取りまとめた。

「ドレンレイヤー工法による暗渠排水技術」については、平成 12 年度から本年度まで検討してきた。本技術は疎水材設置と有孔管埋設を同時に行う工法であり、これまでの試験から、排水効果、コスト等について成果として取りまとめた。

「大豆不耕起播種」については、平成 11 年度から本年まで検討してきた。本年度は、利用可能な 3 タイプの播種機についてそれぞれの作業能率・ほ場適応性などの作業特性及び特徴等についてこれまでに得られたものを成果として取りまとめた。

「環境に配慮した農村整備手法の確立」では、県内 3 地区について水路施設・生物について現状を調査して問題点の抽出を行った。

「グランドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証」では、植種の選定・工法の検討・法面への施工・施工後の調査を実施した。

(3) 園芸畑作部

果樹研究室

果樹研究室では、リンゴの栽培試験および品種改良を主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。

リンゴでは、JM 台木を利用した省力的な低樹高化栽培による省力化、軽労化、低コスト化技術の開発を目標に、新技術地域実用化研究促進事業により「リンゴわい化栽培における省力・安定生産のための JM 台木利用・早期成園化技術の開発」試験を進めている。14 年度は JM 1 及び JM 7 台木の挿し木繁殖法および接ぎ木挿し法による苗木の短期生産の体系的技術を取りまとめた。また、地域基幹農業技術体系実用化研究「新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感リンゴの生産技術」により、これまでの外観本位から、消費者が求める食味本位の果実生産に重点を置いた省力栽培技術の開発を目指した研究に取り組んだ。この課題は、着色管理を限りなく省力化した食味本位のリンゴ(葉取らずリンゴ、糖度保証リンゴ、蜜入りリンゴ、丸かじりリンゴ等)を安定的に生産し、栽培コストの低減を図るとともに、非破壊選果機を高度に利用した品質評価技術により、手頃な価格で消費者が満足する果実を提供する技術を確立し、需要の拡大を図ろうとするものであり、14 年度は食味本位の栽培に適した樹相診断基準、摘花・摘果剤利用による摘果作業の省力効果、摘果剤による着色管理の省力効果を明らかにした。

リンゴの品種改良では、「きおう」に続く岩手の地域特性を生かせる、早・中生種を主体とした交雑育種に取り組んでおり、本年度は「岩手 6 号」を奨励品種に採用し、品種登録申請を行うこととした。また、1 系統を有望系統として岩手番号を付した。

ブドウでは、短梢棚を活用した大粒種の栽培技術開発及びヤマブドウの結実促進技術の開発を進めている。また、品種開発では 5 系統を二次選抜に編入しているが、うち 2 系統に岩手番号を付した。

西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーについては、国内外の有望品種の本県への適応性と特性検定を主体に試験を実施している。

野菜畑作研究室

畑作物では、実需者ニーズに対応した高品質・安定生産技術及び超省力・低コスト生産技術体系の確立が求められており、優良品種選定・栽培法試験に加えて、地域基幹研究「不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力栽培技術の確立」、同じく「麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発」等に取り組んだ。有望視した品種・系統としては、小麦「ゆきちから(東北 214 号)」、大麦「ファイバースノウ」、大豆「ユキホマレ」等であった。また、不耕起大豆については 4 年目を迎えて現地実証に重点を置いて雑草防除や圃場排水対策技術等の検証を行った。また、

小麦の冬期播種栽培技術の確立に向けて、高品質安定生産確保のための播種量・施肥法等に取り組んだ。

野菜では新規課題が多く、小課題レベルで「果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培体系の確立」、「果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立」、「ネギの産地力強化のための低コスト・長期安定供給技術の確立」、「寒冷地における夏秋イチゴの低コスト生産・安定供給技術の確立」に着手した。また、最終年度を迎えた「地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証」等の継続課題に引き続き取り組んだ。

本年度の試験研究成果としてはいずれも「普及」区分で、製パン適性が高く耐病性に優れる小麦「ゆきちから」、精麦品質が優れ早生・良質の大麦「ファイバースノウ」、雨よけトマトの点滴灌水施肥栽培における施肥量低減、の合計3つをとりまとめた。

花き研究室

花き研究室では、国際化や消費動向の変化に対応できる寒冷地型省力的花きの生産技術を確立するため、重点品目を中心としたオリジナル品種の育成を図るとともに、気象条件を活用した新商材の開発や長期継続出荷できる生産技術の確立に取り組んでいる。

品種開発では、りんどうの極々早生品種や新しい花色・花姿の品種を育成すること、スプレータイプの小ぎく「アイマム」シリーズの花色・開花期の幅を広げること、スターチス「アイスター」の花色の幅を広げること、ゆりの小輪系品種等を育成すること、を目的に選抜を行った。本年度は、小ぎくの「アイマム」シリーズとして、「レモンイエロー」、「オータムホワイト」、「パープルレッド」、「アーリーホワイト」の4品種を育成し、県の奨励品種とした。

新商材開発では、枝物花木について品目選定と栽培特性の解明、効率的増殖法と育苗技術の確立、栽植方式や整枝・仕立て法の確立、等を進めるとともに、「いわて乙女」の安定生産技術の確立等に取り組んだ。

長期継続出荷技術については、小ぎくの作期拡大や鉢物りんどうの開花調節等に取り組んだほか、宮古地域において、沿岸の気象条件を活用し施設を利用した花き周年生産モデル経営の確立実証に取り組んだ。

南部園芸研究室

現在地（標高15mの平坦地）には場を移転して試験を開始してから、平成14年度は2年度目となった。県南部や沿岸地域の気象条件を活かした野菜花き園芸技術の開発研究とともに、特色ある園芸産地形成のための地域実証試験を実施している。

花きに関する試験では、アレンジメントアスターの隔離床による栽培法について検討を行った。また、アネモネの年内穫り作型における高品質栽培のためは種・定植時期の検討を行った。さらに、太陽光発電を利用し、ヒートポンプによる花きの作期拡大や品質向上の試験では、年内収量が慣行栽培より株当たり1本程度増収した。秋出荷花壇苗高品質低コスト生産技術では、パンジーに対するわい化剤の使用効果について検討を行った。

野菜に関する試験では、イチゴの短日処理による秋出し促成作型の確立のための適品種の検討、寒冷地における夏秋イチゴの生産安定技術確立のための種子系イチゴ品種特性を検討、イチゴ低温カット栽培における高設栽培技術の確立のための省力的な施肥法について検討を行っている。また、高規格ガラスを利用したトマトの養液栽培による周年栽培の実証を行っている。省力化・高品質栽培技術の確立のための少量土壌培地耕によるイチゴのベンチアップ栽培やトマト栽培について検討を行っている。なお、本年度はイチゴの高設栽培において、生産の安定には培地量株当たり2リットル程度確保する必要があり、また、促成栽培品種の適正な株間は、品種「女峰」・「さちのか」とも18~20cmであることを明らかにした。（試験研究成果（指導））

(4) 生産環境部

環境保全研究室

環境保全型農業技術の総合組立および環境負荷軽減・環境保全機能維持に関する試験研究に取り組んだ。

水稲の環境保全型農業技術の総合組立に関しては、温湯浸漬法による種子消毒、プール育苗、ケイ酸資材投入（本田期）等による減農薬栽培技術の総合組立試験を行い、温湯浸漬法が本品種に対しても適用性のあることを明らかにした（試験研究成果（指導））。また、特別栽培農産物認証制度改正に対応し、水稲栽培における農薬成分、化学肥料投入量について客観性のある慣行レベルを策定、提案した（研究成果（行政））。

野菜関係では、キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培試験において、作期の利用（早春播き栽培）および防虫ネットの利用（春～夏播き栽培）により、特にコナガ防除を重点とした無農薬栽培ができる目途がついた。また、有機農産物の生産条件の解明において、トマト、ピーマンについて土壌条件、生産物の栄養成分（ビタミンC含量）等について昨年度に引き続き調査した。

環境負荷軽減に関しては、農業・食生活分野の窒素フローを作成し、県内循環分のうち未利用窒素が59%であることなどを推定した（研究成果（行政））。また、育苗センター等の水稲種子消毒廃液は専用装置で処理後、残液を

土壤に処理することが適切な方法であることを示した（試験研究成果（指導））。

環境保全機能維持に関しては、育苗箱施用剤のトンボ幼虫羽化率に及ぼす影響を明らかにするとともに、管理の異なる水田や用・排水路に生息する水生生物の種類等を調査した。

以上に加えて、昨年度までの調査結果を取りまとめ、水稻の標準的病害虫雑草防除体系における本県産米の農薬残留は、基準値の3分の1以下で安全性が確保されていることを示した（研究成果（行政））。

土壤作物栄養研究室

土壤作物栄養研究室の重要事項として、第1に畜産県岩手で大量に発生する家畜糞尿の循環利用促進がある。昨年に引き続き普及センターの収集した堆肥のデータベース作成に取り組んだ。近年のたい肥の成分について県全体の畜種別平均を従来のものと比較した。また従来の土づくり中心の使用法から、一步踏み込んで化学肥料代替を狙った使用法に拡大するための現地適用試験を行った。オガクズ牛きゅう肥はこれまでの連用効果を取りまとめ、硝酸溶脱抑制にも有効であることが明らかとなった。

第2に持続的生産技術確立があり、持続的生産を目的とした施肥法を引き続き検討した。昨年度狂牛病騒動で使用不可能になった水稻有機質肥料は、鶏糞を中心とした県内産の安全有機物に変えて検討し、従来と同等の効果が得られたため、普及に移した。野菜ではキャベツの肥効調節型肥料での減肥、トマトで点滴灌水施肥栽培における施肥量低減等を成果とした。

第3にこれら有機循環や持続農業を支える重要事項として、土壤診断、栄養診断を引き続き検討し、土壤可給態窒素のSDS簡易測定法、りんご樹体の栄養状態を知るための画像解析法を成果とした。現場での解析としては平成14年7月の台風6号による水稻冠水被害の解析として冠水被害地域に流入した土壤の土壤調査を実施し、次年度の施肥窒素低減を指導に移した。

保鮮流通技術研究室

推進構想に定める試験研究の基本方向の5「地域特性を生かしたオリジナルな農畜産物の加工・流通技術の開発と販売手法の確立」を進めるため、食の安全性向上に対応した県産農産物の品質評価技術、新鮮な県産農産物の流通中の鮮度保持貯蔵技術の研究、アグリビジネス創出・地産地消運動に対応した地域特産加工品の開発試験の3つの今日的な課題について、解決に必要なひとつひとつの技術や手法の開発に取り組んだ。

品質評価技術の確立については、県産青果物の品質、おいしさを向上させるための技術確立をねらいとしており、雨よけハウレンソウのRQフレックスを用いた簡易な硝酸分析、基肥の削減による硝酸濃度の低減効果、日本一の雑穀の抗酸化性やミネラル成分と精白・炊飯の関係をとりまとめた。また、寒締めハウレンソウやその他の葉菜類のおいしさ、栄養の指標としてビタミンC及び糖含量を簡易に分析できる評価法などを検討中である。

鮮度保持貯蔵技術については、MA包装資材を用いた良食味だまめの品種の食味保持効果、雪国岩手の雪水を利用した簡易高湿予冷庫、出荷時刻の変更に伴うトマト一晚予冷出荷の実証結果を取りまとめた。また、蜜入りりんごの出荷期間延長をねらいとする冷温高湿貯蔵技術、ラ・フランスの追熟技術、通いコンテナ利用における鮮度保持などを検討中である。

地域特産加工品開発では、生産が増加している大豆の二段階膨化法による加工技術を取りまとめた。また、雑穀の特徴を活かした加工品開発、県オリジナルモチ米品種の餅硬化を抑制する加工技術、ハトムギを活用した新加工技術、沿岸部の柿加工品への脱渋加工技術の応用などを検討中である。

岩手ならではの特徴ある農産物加工品の製造技術のアドバイスや、農村婦人を中心とした地場産品の開発支援にも力を入れている。

(5) 病害虫部

病理昆虫研究室

病害虫制御技術開発を支援するための病害虫発生生態の解明、生態系を活用した病害虫制御技術の開発に取り組んだ。

病害虫発生生態の解明として、水稻害虫では斑点米の原因となるアカスジカスミカメの発生生態解明と防除技術組み立て、イネドロオイムシ等初期害虫の隔年防除技術の確立に向け試験に取り組んでいる。果樹病害ではりんご褐斑病の重点防除時期を明らかにし定期散布剤選択による効率的防除法を示し普及に移す成果とした。また、りんご苗木に発生した根頭がんしゅ病の多発要因を解析し、本病の発生を低減できる苗木生産法を示した。花きの病害虫では育苗中のりんどう苗を食害するクロバネキノコバエ類の防除に効果の高い剤を見出し、その使用法を示した。また、りんどうに輪紋状の葉枯れ症状をひきおこす原因の一つとしてリンドウ黒斑病があることを確認した。野菜病害ではキュウリべと病、キュウリうどんこ病について発病増加を抑制できる殺菌剤の使用法を示し、トマト青枯病が芽かき等の作業によって汁液で隣接株に伝染することを確認し、被害の拡大回避法を示した。

生態系を活用した病害虫制御技術として天敵・微生物等自然生態系の活用、省力・低コスト病害虫防除技術、病害虫総合管理技術について検討した。これらの中から、新農薬による各種作物の病害虫防除、生物農薬「シュードモナスC A B - 02 水和剤」によるイネ育苗期の細菌病防除法、水稻種子の大量消毒に適用できるイブコナゾール水和剤による消毒効果を明らかにし普及に移す成果とした。また、施設栽培ピーマンにおける天敵タイリクヒメハナカメムシの放飼開始時期、レタス腐敗病に対する数種薬剤の防除効果を明らかにしたほか、露地きゅうり栽培では病害の総合防除の観点から、従来の基本技術の組み合わせと適切な農薬の選択により主要病害の発生抑制と省力・低コスト化が可能であることを明らかにし、いずれも試験研究成果として公表した。

なお、りんどう産地で数年来発生が目立っているりんどうこぶ症の原因解明について栽培部門、土壌肥料部門と共同で本年度から試験に着手した。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

本県の気候・風土に適し、高品質・低コスト生産が可能となる優良種畜の作出（造成）や肥育技術の向上のための技術確立に取り組んでいる。

日本短角種の優良種雄牛の作出について、直接検定 21 頭を実施し、1 日当たり平均増体量（D G）は 1.25kg（選抜牛 1.28kg）であり、10 頭選抜（選抜率 47.6%）した。間接検定は「琴星」「敏高」「勝富」「松隆」「若萩」「松秋」「辰錦」の 7 種雄牛について実施し、「勝富」の肉質が優れ人工授精用基幹種雄牛として選抜した。

また、日本短角種の産肉能力の向上を図るため、岩手県内産子の枝肉データ、血統を分析し、遺伝的パラメータ及び雄牛と雌牛の産肉性に係る育種価を算出し各地域に提供した。

黒毛和種肥育技術として、遺伝的に同一な一卵性双子等を用いて去勢牛の若齢肥育における適正なビタミン A 給与技術の確立に取り組み、肥育中期にビタミン A を血中濃度 30～50IU/dl にコントロールすることにより、発育は低下するものの肉質が向上することを明らかにした。

平成 13 年 7 月に（社）日本種豚登録協会から系統認定を受け、肢蹄強健で全国トップクラスの発育能力を有する「イワテハヤチネ L2」を利用した F 1 母豚及び三元交雑種の組み合わせ検定を実施し、優れた繁殖能力及び産肉性を確認した。

岩手県在来の天然記念物「岩手地鶏」を活用し、本県独自のオリジナル高品質肉用鶏を作出するため、平成 8 年度から軍鶏×（有色コーニッシュ×岩手地鶏（赤笹））交配鶏の選抜淘汰を繰り返し、発育能力の高い基礎鶏を作出した。本年度は、この基礎鶏に最も適した交配法を決定するための組み合わせ試験を実施した。

家畜飼養研究室

自然環境への配慮と飼料自給率向上を基本とした生産性の高いゆとりある酪農経営を構築するため、超省力管理技術及び資源循環型酪農の飼養管理技術の確立に取り組んでいる。

搾乳牛（泌乳中期牛・後期牛）の時間制限集約放牧では、併給飼料の調整により安定した乳量・乳成分を確保するとともに、乾乳前期牛の集約放牧は、周産期病（ケトーシス、第四胃変位等）の発生予防に効果のあることを実証した。

育成牛の集約放牧では、概ね 7～14 ヶ月齢までの期間ペレニアルライグラス草地において集約放牧したところ群平均（乳用雌 7 頭）の通算 D G は 1.00kg と良好な発育が得られ、初回授精の目安とされる体重 350kg、体高 125cm へはそれぞれ 12.2 ヶ月齢及び 11.3 ヶ月齢で到達し、標準発育値より早まることを確認した。

高泌乳・高蛋白牛群飼養管理技術では、ET 技術により高能力牛の造成を進めるとともに、高能力牛として育成された牛については、現在その能力を検定中である。また、高能力牛としての遺伝的能力を充分発揮させるため、アミノ酸バランスを考慮した飼料給与として、メチオニン製剤添加 TMR 飼料給与を行ったところ無脂乳固形分率の増加が認められた。

機械搾乳（ロボット、パーラー搾乳）が乳腺細胞に及ぼす影響については、ロボット搾乳牛ではミルクホース内の牛乳が一定時間通過しないと分房単位ごとに自動離脱するため、500ml 以上の残乳を示す分房も 30%認められ、乳腺の損傷度合の指標とされる酵素活性値（NAGase）の異常を示す個体も少なかった。一方、パーラー搾乳牛は分房一括自動離脱方式であり前者に比較しやや異常分房が多く見られ乳腺の損傷が示唆された。なお、乳房炎発生との関連については他の検査項目等を加味しながら検討を進める。

家畜工学研究室

家畜バイオテクノロジーの利用のため胚移植、核移植、DNA 解析等の基礎および応用化研究に取り組んだ。胚移植では全国的に課題となっているダイレクト移植による受胎率向上のための基礎試験を実施した。その結果、糖を添加した 1.8M エチレングリコールは生存率が有意に高い培養成績を得た。

体細胞クローン技術研究では、高率に発生する異常産の原因究明のため染色体検査を実施したところ再構築胚に倍数性の異常が半数に見られ、異常産との関連が示唆された。また、高育種価産子の頸側皮下から採取した線維芽細胞をドナー核として作出した再構築胚の移植により取得した産子が肥育試験に入った。このドナー牛は間接検定息牛確保のため農家牛に交配を開始し、息牛とクローン牛との産肉比較を計画している。

遺伝子解析ではトレーサビリティシステムを科学的に証明するため、親子判定で用いられているマイクロサテライトマーカーにより個体識別を試みた。サンプリングは生産地、処理場で行われるため DNA 量の確保、コンタミ防止の観点から血液もしくは筋肉、脂肪組織が最良となる。DNA 量のコンタミは 20%以下では検出できない等を明らかにした。一方、既に報告した DM 牛の原因遺伝子をホモ、ヘテロで保因するそれぞれのグループの産肉成績は、対照牛より勝ることが判明し、一連の研究成果は東北畜産学会長から学術的評価を得た。

さらに肥育牛に発生する尿石症の新たな治療方法を見いだした。この方法は陰嚢前方切開による外科的方法であるが、術野と結石の栓塞する尿道 S 字部を容易に確保し結石排出ができる。よって患畜のストレス軽減や術技の簡易化、再発時の再処置、肥育期間の延長等を可能とし、生産者は尿石症による経済的損失を最小限にとどめることができる。

飼料生産研究室

本県の畜産を安定的に推進するため、良質粗飼料の効率的な生産と圃場還元を目的とした家畜糞尿処理技術の開発のために試験に取り組んでいる。

とうもろこしの品種選定：国・公立機関で育成された系統のうち北海道農業研究センター育成系統 1 系統、畜産草地研究所育成系統 3 系統、長野県中信農業試験場育成系統 2 系統、計 6 系統について検討した結果、乾物収量では標準品種同等程度であったが総じて黒穂病に弱い傾向にあった。市販とうもろこし品種では早生種の「36B08(パイオニア 106 日)」と中生種の「33J24 (パイオニア 112 日)」が、耐病性、乾物収量、TDN 収量とも標準品種に比較し優れていることが明らかにされ推奨品種候補として提案した。

ソルガム市販品種の特性比較(2年目)：ソルガム市販品種 12 品種について生育特性を検討した結果、中生品種までは9月中旬～上旬に収穫が可能で、そのうち「ゴールドソルゴー」の収量性が優れていた。平成 15 年度引き続き調査を実施することとしている。

細断型ロールペーラーの基本性能調査(1年目)：新開発の細断型ロールペーラーの作業能率は、故障による試験中断時間を除いて 21.6a/hr であった。ネットの繰り出し不良、チャンパの開閉不具合による梱包不良が見られ改良を要すると思われた。従来作業体系(ハーベスター)との比較では、細断型体系では実作業時間が従来体系に対し 1.5 倍かかったが、延べ労働時間では作業員数が 3 名と従来体系の半分であることから 20 時間 24 分 / ha と約 1/2 に時間短縮された。平成 15 年度では調製されたロールペールサイレージの給与方式、保存性を中心に検討する。

ロックウール(以下 RW)脱臭装置の排水を再利用する循環方式の検討を行い、排水循環運転により脱臭性能を低下させずに排水の外部流出を防ぐことができること、またこの運転条件下における RW 排水が尿素肥料と同程度の肥料効果が期待できるものであることを明らかにした。これらのことから脱臭排水の液肥利用を併用することにより RW 脱臭装置における排水循環運転が長期的にかつ安定的に可能となると考えられた。

外山畜産研究室

中山間地域に位置する本研究室では立地特性である豊富な草資源を活用した、放牧飼養形態を取り入れた肉用牛の試験研究に取り組んでいる。

黒毛和種放牧子牛が舎飼子牛と同等以上の発育が確保できるように、牛、草及び施設面から検討している。放牧子牛の発育に及ぼす要因として、入牧時期、入牧時体重、放牧日数、が有意に影響することを明らかにした。子牛用補助飼料の嗜好性と補助飼料への馴致作業省力化の関連について検討した。放牧地の牧草生産性平準化技術では、初夏施肥とクサボウシ(PR)、フレンド(PR)、ホクシュウ(TY)による草種の組み合わせについて検討した。泥濘化改善資材としてカキ殻を利用することにより、改善効果が得られることを明らかにしたが、引き続き被覆資材についての耐久性、及び経済性について調査した。さらに、遠野市貞任牧場で子牛の発育向上及び牧草生産性平準化についての現地実証試験を実施した。

また、草地、林地の環境保全機能として、肉用牛放牧地における水土保全機能の解明について、牧草地内を貫流する溪流と林内溪流地の流水変動を流量から比較検討した。

種山畜産研究室

本県の黒毛和種改良事業「いわて和牛改良増殖対策事業」の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 22 頭を選抜するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子 3 頭計 25 頭の直接検定を実施し年度内に 10 頭終了、残り 15 頭については平成 15 年 6 月までに終了する。全頭終了後検定成績、血統、体型、母牛の育種価等総合的に検討し後代検定用種雄牛として 6 頭を選抜する。

平成 10 年度の直接検定により選抜された「菊重福」「勝栄光」「第 3 原茂」「菊安舞鶴」「菊白木恒」「菊福幸」の 6 種雄牛について間接検定を実施し下記の成績が得られた。

ア．1 日当たり増体量(kg)

第 3 原茂(1.03) > 菊安舞鶴(1.02) > 第 3 原茂(1.01) > 菊重福(0.98) > 菊重福(0.97) > 菊白木恒(0.89)

イ．ロース芯面積(cm²)

菊重福(54) > 菊安舞鶴(52) > 菊福幸(50) > 第 3 原茂(46) > 勝栄光(45) > 菊白木恒(40)

ウ．脂肪交雑(BMS)

菊安舞鶴(3.6) > 第 3 原茂(3.1) > 菊重福(3.0) > 勝栄光(2.8) > 菊白木恒(2.5) > 菊福幸(2.3)

平成 14 年度間接検定が終了した種雄牛のうち、「菊重福」「第 3 原茂」が脂肪交雑および 1 日当り増体量の成績が全国平均を上回ったことから、県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。

「菊安舞鶴」については脂肪交雑(BMS)成績が全国平均を大きく上回る成績であったが、産子に乳頭欠損等が見られ、現在その原因を調査中であり当該牛は待機種雄牛とし、凍結精液の供給は休止している。

平成 13 年度開始した「現場後代検定」実施候補種雄牛 3 頭については、平成 15 年 1 月までに肥育が終了し、その枝肉格付成績から肉質等級 4・5 率が 78.9%と優秀な成績であった「金菊徳」が県有種雄牛に選抜され凍結精液の供給を開始した。

(7) 県北農業研究所

営農技術研究室

県北地域の特色を生かした環境保全型農業技術の開発、野菜等の省力機械化技術の確立に関する試験研究に取り組んだ。

環境保全型農業技術に関しては、病害虫制御技術の分野では平成 10 年度から取り組んできた「東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の確立(地域基幹)」が最終年度にあたり、「交信攪乱剤利用によるキャベツのコナガ防除」(試験研究成果 普及)や「菌密度 発病度曲線を利用したキャベツ根こぶ病防除要否の判定法」(試験研究成果 研究)を提案するとともに、5 年間の成果をとりまとめたパンフレットを作成した。化学肥料低減技術の分野では、施肥窒素量の削減が可能とされる「肥効調節型肥料を用いたキャベツの全量基肥畦内局所施肥技術」(試験研究成果 研究)の実用性を明らかにした。また、土壌改良資材や稲わら腐熟促進資材を含む肥効調節型肥料の水稻への一発施肥技術について検討した。畜産由来有機物活用の分野では、奥中山地域における液状コンポスト調製利用システムの確立試験に着手した。16 年度までに液状コンポストの草地や飼料作物への利用技術の確立を目指す。また平成 10 年度から場内の水田及び畑ほ場において実施してきた有機物施用基準設定調査は本年度で完了し、有機物連用による地力の変化と要因を解析するとともに、組み替え新規として、次年度から化学肥料代替利用に視点を置いた連用試験を開始することとした。

省力機械化技術に関しては、「ひえの乾燥・調製技術」(試験研究成果 普及)を全国で初めて確立し、精白歩留まりを向上させるとともに機械化一貫体系による産地での大量処理を可能とした。また、ほうれんそうの調製機と生研機構等と新たに共同開発した計量機付き包装機を組み合わせた体系利用について検討し、「ほうれんそう計量・包装機の作業特性と省力効果」(試験研究成果 普及)として提案した。ほうれんそうでは機械収穫が残された課題となったが、今年度から産地育成研究室と共同で「機械収穫に適したほうれんそうの形態・形質の解明」に着手した。

産地育成研究室

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施している。

野菜では、優良品種選定試験としてキャベツ・ほうれんそう・だいこんの 3 品目について実施し、平成 14 年度はほうれんそう 1 品種を「推奨品種」として普及に移した。

県北地域の主要野菜品目である雨よけほうれんそうについては、大型経営体育成のための技術開発として、夏期高温時の遮光技術やかん水方法及び効率的な栽植様式について、普及センター設置のリーディングファームと連携し、検討した。また、カラシナ鋤込みによる萎ちょう病軽減技術や機械収穫に適した品種選定について、新規課題として新たに取り組みを開始した。さらに、県北地域に自生する山菜ウルイについて、促成用母株養成技術や無加

温被覆による半促成栽培技術の確立に取り組んだ。

花きでは、地域基幹研究「中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物の生産技術」において、中山間地域に適した宿根草・花木の品目組み合わせによる長期継続出荷体系について現地実証（二戸市上斗米）を行った。また、21世紀型農業経営モデル実証試験（一戸町小友）では、秋だしパンジーを中心とした花壇苗の周年生産技術やガーデニング用素材の検討を行った。さらに、グランドカバープランツについては、挿し木による簡易増殖技術、法面保護と景観形成のための種子散播による低コスト法面被覆方法について検討した。

やませ利用研究室

県北地域を対象とした水稲、普通作物（小麦、大豆等）雑穀類の栽培法や品種の選定及び葉たばこの環境保全型栽培技術に関する研究を実施している。

水稲では、12年度に県奨励品種に採用し13年度に栽培法を研究成果とした、県オリジナル新品種「いわてっこ」について、食味向上を主眼においた栽植密度、施肥法、地域別の栽培試験を実施し、技術確立にむけたデータ収集・解析を行った。

小麦、大豆等の普通畑作物では、県北地域に適応する多収・良食味品種の選抜・育成を目標に、国や北海道立農試で育成した系統を導入しての試験を実施し、小麦の製パン特性が優れる「ゆきちから（東北214号）」が有望であることを確認し、奨励品種に採用した。雑穀類では優良系統選抜のため在来種を中心に75系統比較栽培し、その中からヒエの低アミロース系統を見いだし東北の研究成果情報に提出した。

一方、葉たばこに関連する調査研究では、緊急な課題となっている廃プラ処理対策の一つとして、生分解性マルチ新資材の検討を継続し、資材別の特徴を明らかにしたほか、鍬込みなど後処理技術について予備試験を実施した。

3 平成 14 年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

推進構想分野 担当部署	総課題数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	R	S	T	U	V	W	X	
		水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	酪農	肉畜	草地飼料	作物バイオテック	家畜バイオテック	環境保全	土壌作物	病害虫	農業農村	生産システム	農村整備	地域活性化	やませ利用	生物機能	有機農業	保鮮流通	農産物加工	情報利用	
企画経営情報部	20	1	3	3	1		1	1						1	7			1						1	
農業経営研究室	20	1	3	3	1		1	1						1	7			1						1	
農産部	99	68								14						9	8								
水田作研究室	29	28														1									
水稲育種研究室	39	39																							
応用生物工学研究室	14									14															
生産工学研究室	17	1														8	8								
園芸畑作物部	122		22	43	28	27							2												
果樹研究室	43			43																					
野菜畑作研究室	38		22		16																				
花き研究室	23					23																			
南部園芸研究室	18				12	4							2												
生産環境部	64	1			4	1						8	26			2						6	8	7	1
環境保全研究室	17				1							7	2									6			1
土壌作物栄養研究室	29	1				1						1	24			2									
保鮮流通技術研究室	18				3																		8	7	
病害虫部	23					1								18							4				
病理昆虫研究室	23					1								18							4				
畜産研究所	43	1					7	17	10		5	3													
家畜育種研究室	10							9				1													
家畜飼養研究室	6						6																		
家畜工学研究室	5										5														
飼料生産研究室	13	1				1			9				2												
外山畜産研究室	5							4	1																
種山畜産研究室	4							4																	
県北農業研究所	76	9	16		6	6						5	9	9		5			10					1	
営農技術研究室	33		2									4	9	9		3			5					1	
産地育成研究室	16				6	6										1			3						
やませ利用研究室	27	9	14									1				1			2						
総計	447	80	41	46	39	35	8	18	10	14	5	16	37	28	7	16	8	1	10	4	6	8	7	3	

(2) 試験研究課題一覧

凡例

小課題 No : 小課題の連番、課題毎の固有番号は課題名の先頭に () 表記
 研究分野 : 推進構想の研究分野
 推進構想 : 推進構想分野の中課題コード (小課題分のみ記載)
 研究課題名 : 小課題は太字表示、細目課題は 1000 番代表記、細目 1~4 まで各桁毎の表記
 課題名の末尾 () に実施年度を表記
 担当研究室 : 小課題は主査研究室、細目課題は主担当研究室 (分担研究室名は本一覧では未掲載)
 予算 : 国庫研究; 国庫補助研究、国庫委託: 国庫委託事業、民間委託; 民間委託事業、
 令達; 令達予算研究、県単研究; 県単研究予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
 実施区分 : 新; 新規課題、継; 継続課題、終; 終了課題、繰上; 繰上終了 未: 未着手
 実施 No : 予算配分されている実施課題の連番

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名 (課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
1	水稲	A-1-1-2	(736)分子マーカーを用いた岩手県水稲奨励品種の識別技術の確立(H13~H14)	水稲育種	終	令達	1
2	水稲	A-1-1-2	(737)分子マーカーを用いた選抜技術の検討(H13~H17)	水稲育種	継	令達	2
3	水稲	A-1-2-1	(5)水稲新規需要等対応品種の育成(H1~H22) (1000)水稲新規需要等対応品種組み合わせ親の特性調査(H1~H22)	水稲育種 水稲育種	継 継	- 令達	3
4	水稲	A-1-2-1	(18)水稲品種特性調査(H7~H22) (1000)東北地域の水稲奨励品種比較試験(H7~H22) (2000)水稲品種保存用品種・系統の展示及び交配母本の養成(S59~H22) (3000)イネ・ゲノムシミュレータの開発(H13~H15)	水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継	- 令達 令達	4 5
5	水稲	A-1-2-2	(6)水稲高度耐冷性集積系統の育成(H2~H22)	水稲育種	継	令達	7
6	水稲	A-1-2-2	(7)水稲高度耐病性集積系統の育成(H2~H22)	水稲育種	継	令達	8
7	水稲	A-2-1-0	(19)水稲品種育成交配試験(S59~H22) (1000)水稲交配試験(S59~H22) (2000)水稲初期世代養成試験(S59~H22) (3000)水稲世代促進試験(S59~H22) (4000)水稲個体選抜試験(S62~H22) (5000)水稲単独系統選抜試験(S58~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継 継 継	- 令達 令達 令達 令達	9 10 11 12 13
8	水稲	A-2-1-1	(20)稲いもち病抵抗性極強品種・系統の育成(H1~H22) (1000)いもち病真性抵抗性遺伝子型の推定(H1~H22) (2000)葉いもち圃場抵抗性検定調査(S48~H22) (3000)穂いもち圃場抵抗性検定調査(S62~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継	- 令達 令達	14 15 16
9	水稲	A-2-1-5	(15)水稲生産力検定試験(S58~H22) (1000)生産力検定予備調査(S58~H22) (2000)生産力検定予備試験系統群(S58~H22) (3000)生産力検定本試験(S58~H22) (3100)早生品種(H9~H22) (4000)生産力検定本試験系統群(S58~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継 継 継	- 令達 令達 令達 令達	17 18 19 20 21
10	水稲	A-2-1-5	(16)水稲系統適応性検定試験(S39~H22) (1000)水稲系統適応性検定試験(国公立育成成分)(S39~H22)	水稲育種 水稲育種	継 継	- 国庫委託	22
11	水稲	A-2-1-5	(21)極良食味水稲品種・系統の育成(S60~H22) (1000)食味官能調査(S60~H22) (2000)食味成分調査(H2~H22) (3000)炊飯米外部構造調査(H13~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継	- 令達 令達	23 24 25
12	水稲	A-2-2-1	(22)高度耐冷性水稲品種・系統の育成(H2~H22) (1000)高度耐冷性を有する系統の探索(H2~H22) (2000)障害型耐冷性検定調査(S59~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継	- 令達 令達	26 27
13	水稲	A-2-2-1	(23)不良環境地帯向け水稲品種の育成(現地試験)(S59~H22)	水稲育種	継	令達	28
14	水稲	A-2-2-1	(24)育成地間相互交換水稲系統適応性検定試験(S52~H22) (1000)中・晩生水稲系統(S52~H22) (2000)早生水稲系統(H9~H22)	水稲育種 水稲育種	継 継	- 令達	29 30
15	水稲	A-2-2-2	(25)低温登熟性に優れる水稲品種・系統の育成(H2~H22)	水稲育種	継	令達	31
16	水稲	A-2-2-3	(26)難穂発芽性水稲品種・系統の育成(S62~H22) (1000)穂発芽性検定調査(S62~H22)	水稲育種 水稲育種	継 継	- 令達	32
17	水稲	A-2-3-0	(27)直播適応性水稲品種・系統の育成(H13~H22) (1000)直播関連適性検定法の検討(H13~H22) (2000)直播生産力検定試験(H3~H22)	水稲育種 水稲育種 水稲育種	継 継 継	- 令達 令達	33 34
18	水稲	A-2-4-1	(28)超多収水稲品種・系統の育成(H2~H22) (1000)育成系統の施肥反応試験(H2~H22)	水稲育種 水稲育種	継 継	- 令達	35
19	水稲	A-2-4-2	(29)醸造用水稲品種・系統の育成(S63~H22)	水稲育種	継	令達	36

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
36	水稲	A-4-2-2	(802)籾の加水率に着目した水稲の刈取り適期診断技術の開発(H14~H16)	水田作	新	県単研究	74
37	水稲	A-5-3-2 H-2-2-2	(740)寒冷地北部における飼料イネ生産給与体系の確立(H13~H15) (1000)省力・低コスト生産技術体系の実証(H13~H15) (2000)ミニマム防除体系の確立(H13~H14) (3000)良質イネホールクroppサイレージ調整技術の確立(H13~H15)	水田作 水田作 飼料生産 飼料生産	継 継 終 継	- 国庫委託 - 国庫委託	75 76
38	水稲	A-6-0-0	(61)水稲原々種生産(S29~H22)	水田作	継	県単採種	77
39	水稲	A-6-0-0	(62)水稲原種生産(S29~H22) (2200)県北地域(H14~H18) (3000)水稲作柄成立要因の解析(H14~H18)	水田作 やませ利用 水田作	継 新 新	県単採種 県単研究 県単研究	78 79 80
40	畑作物	B-1-1-1	(875)大豆の奨励品種決定調査(H14~H18) (1000)基本調査(H14~H18) (2000)現地調査(H14~H18) (3000)県北地域(H14~H18)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用	新 新 新 新	- 県単採種 県単採種 県単採種	81 82 83
41	畑作物	B-1-1-1	(876)大豆系統適応性検定試験(H14~H18 H14)	やませ利用	繰繰上 ・新	国庫委託	84
42	畑作物	B-1-1-1	(888)麦類の奨励品種決定調査(H14~H18) (1000)県南・県央地域(H14~H18) (2000)県北地域(H14~H18)	野菜畑作 野菜畑作 やませ利用	新 新 新	- 県単採種 県単採種	85 86
43	畑作物	B-1-1-2	(82)普通作物等の多収良質品種の育成(H13~H16) (3000)そば優良系統の選抜(H13~H16)	やませ利用 やませ利用	継 継	- 県単研究	87
44	畑作物	B-1-1-2 Q-1-1-2	(84)ハトムギ優良品種の選定(H11~H15)	野菜畑作	継	令達	88
45	畑作物	B-1-1-2	(754)新規需要・高機能性品種・系統の選定(H13~H15) (3000)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収技術(H13~H15)	野菜畑作 野菜畑作	継 継	- 国庫委託	89
46	畑作物	B-1-1-2	(858)高製パン適性小麦品種「ゆきちから」(東北214号)の高品質・安定多収栽培技術(H14~H16)	野菜畑作	新	国庫委託	90
47	畑作物	B-1-1-2	(863)市場性を考慮した雑穀優良系統の選抜(H14~H16)	やませ利用	新	県単研究	91
48	畑作物	B-1-1-2	(H14-04)アマランサスの品種特性評価技術確立(H14~H15)	やませ利用	新	国庫委託	92
49	畑作物	B-1-2-1	(819)あずき系統適応性検定試験(H14~H18)	野菜畑作	新	国庫委託	93
50	畑作物	B-1-2-1	(834)ばれいしょウイルス病抵抗性検定試験(H14~H18 H14)	野菜畑作	繰繰上	国庫委託	94
51	畑作物	B-1-2-1	(835)ばれいしょ系統適応性検定試験(H14~H18)	野菜畑作	新	国庫委託	95
52	畑作物	B-1-2-1	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験(H14~H18)	野菜畑作	新	国庫委託	96
53	畑作物	B-1-2-1	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験(H14~H18)	野菜畑作	新	国庫委託	97
54	畑作物	B-2-1-2 Q-1-1-2	(96)不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術(H11~H15) (1000)大豆不耕起栽培体系の導入条件と展開方策(H11~H15) (1400)不耕起土壌の理化学性等の把握(H11~H15) (2000)不耕起播種による大豆の高品質・安定生産技術(H12~H15) (2200)不耕起・無中耕・無培土栽培に対応した土壌管理技術の確立(H12~H15) (2300)不耕起・無中耕・無培土栽培に適応した品種、栽培法の検討(H11~H14) (2400)大豆作を中心とした水田利用作付体系の実証(H11~H15) (3000)大豆の高品質安定生産技術確立(H11~H14) (3100)大豆の高品質安定生産技術確立(H11~H14) (3110)不耕起播種機の能率・精度の向上(H11~H14) (4000)高品質・超省力栽培体系の現地実証(H12~H15) (4100)組立技術の経営経済評価(H12~H15) (4200)地域的波及効果の確認(H14~H15)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 生産工学 生産工学 生産工学 農業経営 農業経営 農業経営	継 継 継 継 終 継 終 終 終 継 継 継 新	- 国庫助成 - 国庫助成 - 国庫助成 - - - 国庫助成 - 国庫助成 国庫助成	98 99 100 101 102 103 104
55	畑作物	B-2-1-3	(97)小麦の冬期播種栽培技術の確立(H13~H15)	野菜畑作	継	県単研究	105
56	畑作物	B-3-1-1	(866)新資材の実用化(H14~H14) (1000)シルクアミノ酸(H14~H14) (2000)生分解性マルチ(H14~H14)	やませ利用 やませ利用 やませ利用	終・新 終・新 終・新	- 民間委託 民間委託	106 107
57	畑作物	B-3-2-1	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明(H14~H18) (1000)麦類の生育相と気象反応の解明(H14~H18) (1100)県央・県南地域(H14~H18) (1200)県北地域(H14~H18) (2000)大豆の生育相と気象反応の解明(H14~H18) (2100)県央・県南地域(H14~H18) (2200)県北地域(H14~H18)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用	新 新 新 新 新 新 新	- - 県単研究 県単研究 - 県単研究 県単研究	108 109 110 111
58	畑作物	B-3-3-3 S-1-1-2	(753)大規模普通畑作経営体の育成と地域農業に及ぼす効果(H13~H15 H14) (1000)大規模普通畑作物の経営実証(H13~H15 H14)	営農技術 営農技術	繰繰上 繰繰上	- 県単研究	112

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
59	畑作物	B-4-1-2	(727)水田大豆の加工適性向上のための高品質安定化技術(H13～H15 H14)	野菜畑作	終線止	国庫委託	113
60	畑作物	B-4-2-1	(739)寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作栽培技術の開発(H13～H17) (1000)麦・大豆立毛間播種体系の導入条件と展開方策(H13～H17) (1100)麦・大豆立毛間播種栽培の定着条件の解明(H13～H17) (2000)麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発(H13～H15) (2000)麦・大豆立毛間播種栽培技術の開発(H13～H17) (2100)立毛間播種に適応した麦・大豆栽培技術の確立(H13～H17) (2110)県央・県南地域(H13～H17) (2120)県北地域(H13～H17) (2200)麦・大豆立毛間播種に対応した効率的雑草防除技術の確立(H13～H17) (2210)県央・県南地域(H13～H17) (2220)県北地域(H13～H17) (3000)麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証(H13～H17) (3100)麦・大豆立毛間播種に対応した肥培管理技術の確立(H13～H17)	生産工学 農業経営 農業経営 生産工学 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 やませ利用 野菜畑作 野菜畑作 営農技術 生産工学 土壌作物養	継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継	- 国庫助成 - - - 国庫助成 国庫助成 - 国庫助成 国庫助成 国庫助成 国庫助成	114 115 116 117 118 119 120
61	畑作物	B-5-0-0	(891)畑作物原々種・原種生産(S29～H17)	野菜畑作	継	県単採種	121
62	果樹	C-1-1-1	(121)21世紀のリングわい化栽培を担うJM台木の利用技術の開発(H11～H15) (1000)JM台木の現地適応性の解明(H11～H15) (1100)JM7台木利用樹の現地適応性(H11～H15) (3000)優良ホト苗の短期生産技術の確立(H12～H15) (3100)JM台木を用いたホト養成苗木の短期生産法(H12～H15) (4000)JM台木と主要品種・県奨励品種との親和性の解明(H11～H15) (4100)JM台木と「ふじ」「きおう」等の親和性(H11～H15) (5000)JM台木利用・栽植様式による低樹高栽培技術の確立(H11～H15) (5100)台木の利用法(H11～H15) (5110)地上部台木長の検討(H11～H15) (5120)JM5台の中間台利用法の検討(H11～H15) (5200)JM7台木の栽植様式の検討(H11～H15)	果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹	継 継 継 継 継 継 継 継 継 継 継	- 国庫助成 - 国庫助成 - 国庫助成 - - 国庫助成 国庫助成 国庫助成	122 123 124 125 126 127
63	果樹	C-1-1-1	(839)りんご新しい性台木「青台3」の特性解明(H14～H18)	果樹	新	県単研究	128
64	果樹	C-1-1-3	(708)山ぶどう結実安定技術の確立(H13～H17)	果樹	継	県単研究	129
65	果樹	C-1-1-3	(709)ぶどう短梢栽培用平棚を利用した大粒種の栽培法の検討(H13～H17)	果樹	継	県単研究	130
66	果樹	C-1-2-1	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜(H14～H18) (1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験(H14～H18) (1100)第9回系統適応性検定試験(H14～H18) (1200)第10回系統適応性検定試験(H14～H18) (2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食用、醸造、兼用種等品種の選抜)(H14～H18) (3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜(H14～H18)	果樹 果樹 果樹 果樹 果樹	新 新 新 新 新	- 国庫委託 国庫委託 令達 令達	131 132 133 134
67	果樹	C-1-2-1	(850)果樹に対する植調剤等の利用法(H14～H18) (1000)果樹園用除草剤の効果的使用法(H14～H18) (2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法(H14～H18)	果樹 果樹 果樹	新 新 新	- 民間委託 民間委託	135 136
68	果樹	C-1-2-1	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作出(H14～H18)	果樹	新	令達	137
69	果樹	C-2-1-1	(128)需要拡大のための省力的食味本位リンゴの生産・流通技術の確立(H13～H16) (1000)食味本位リンゴの均質化栽培技術の確立(H13～H14) (1100)食味本位リンゴの樹体構成法及び光センサー等を利用した均質化栽培法の確立(H13～H14) (1110)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立(H13～H14) (1113)食味本位リンゴの樹相診断技術の確立(H13～H14) (1120)良食味・均質化のための樹体構成法(H12～H14) (1122)受光条件と果実品質の関係解明(H12～H14) (1123)葉面積指数と果実品質の関係解明(H12～H14) (1124)適正な側枝配置法の解明(H14～H16) (1130)各種資材利用による内部品質向上・均質化技術の確立(H12～H16) (1131)光センサーによる内部品質評価法の検討(H12～H16) (1132)各種資材を利用した内部品質向上・均質化技術の検討(H12～H16)	果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹 果樹	継 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終	- - - 国庫助成 - 国庫助成 国庫助成 国庫助成 国庫助成 - 国庫助成 国庫助成	138 139 140 141 142 143

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
69 (続)	果樹	C-2-1-1	(2000)食味本位リンゴの省力・低コスト・平易化栽培技術の確立(H12~H14)	果樹	終	-	
			(2100)新植調剤の実用化による摘果作業の削減技術の確立(H12~H14)	果樹	終	-	
			(2110)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」などへの新摘花・摘果剤利用技術の確立(H12~H14)	果樹	終	-	
			(2111)新規摘花剤の効果確認(H12~H14)	果樹	終	国庫助成	144
			(2112)「さんさ」「ふじ」などへの品種適応性の検討(H12~H14)	果樹	終	国庫助成	145
			(2113)摘果剤の効果安定法(H12~H14)	果樹	終	国庫助成	146
			(2114)体系処理法の開発と省力効果の確認(H13~H14)	果樹	終	国庫助成	147
			(2200)新摘葉剤の実用化及び着色系統の利用等による着色管理の大幅削減技術の開発(H12~H16)	果樹	継	-	
			(2210)「ふじ」「さんさ」「ジョナゴールド」など新摘葉剤利用技術の確立(H12~H16)	果樹	継	-	
			(2211)摘葉剤の実用性及び効果安定法の検討(H12~H16)	果樹	継	国庫助成	148
			(2212)摘葉剤処理が樹体生理に及ぼす影響(H12~H16)	果樹	継	国庫助成	149
			(2213)着色評価のための非破壊センシング利用技術の開発(H12~H16)	果樹	継	国庫助成	150
			(2220)着色系統利用及び着色管理の省力化技術の確立(H12~H16)	果樹	継	国庫助成	151
			(3000)食味本位リンゴの鮮度保持・流通技術の確立(H12~H16)	保鮮流通支研	継	-	
			(3100)食味本位リンゴの冷温高湿貯蔵技術の確立(H12~H16)	保鮮流通支研	継	国庫助成	152
			(4000)食味本位のリンゴ新素材の省力的生産体系の実証と消費流通評価(H14~H16)	果樹	新	-	
			(4100)省力・均質化生産体系の実証(H14~H16)	果樹	新	-	
			(4110)高品質均質化技術の実証(H14~H16)	果樹	新	国庫助成	153
			(4200)食味本位リンゴの消費流通調査(H14~H16)	農業経営	新	国庫助成	154
			(5000)食味本位リンゴの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策の解明(H12~H14)	農業経営	終	-	
(5100)食味本位りんごの省力的生産技術導入による経営基盤強化方策(H12~H14)	農業経営	終	-				
(5110)現行光センサー選果機の活用上の問題点の把握と改善方策(H12~H14)	農業経営	終	国庫助成	155			
(5120)食味本位リンゴの生産体制及び流通機構の実態解析と改善方策(H12~H14)	農業経営	終	国庫助成	156			
70	果樹	C-2-1-1	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明(H14~H18)	果樹	新	-	
			(1000)りんごの生育・生態の把握(H14~H18)	果樹	新	県単研究	157
			(2000)ぶどうの生育・生態の把握(H14~H18)	果樹	新	県単研究	158
71	果樹	C-3-2-1	(131)果樹類の低樹高品種の育成等による省力・軽作業栽培技術の開発(H9~H16)	果樹	継	-	
			(1000)りんごのカラムナータイプ等に適合する新栽培方式・防除法の開発(H9~H16)	果樹	継	-	
			(1100)摘花・摘果の省力技術の開発(H9~H16)	果樹	継	国庫委託	160
72	果樹	C-4-1-1	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発(H14~H18)	果樹	新	-	
			(1000)国育成系統適応性(盛岡58~65号)(H14~H18)	果樹	新	令達	163
			(2000)国内外導入品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	令達	164
73	果樹	C-4-3-1	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発(H14~H18)	果樹	新	-	
			(1000)国内外導入品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	令達	166
			(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	-	
74	果樹	C-4-4-1	(1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	令達	167
			(827)おうとう、もも等の優良品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	-	
			(2000)ブルーベリーの優良品種の選抜(H14~H18)	果樹	新	県単研究	168
76	野菜	D-1-1-1	(747)いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化(H13~H15)	南部園芸	継	-	
77	野菜	D-1-1-1	(878)短日処理によるいちご促成栽培適応品種の選抜(H14~H16)	南部園芸	新	県単研究	169
78	野菜	D-1-1-2	(711)いちご低温カット栽培における高設栽培技術の確立(H13~H15)	南部園芸	継	県単研究	170
79	野菜	D-1-1-2	(849)果菜類における低コスト・安定生産のための新露地栽培体系の確立(H14~H16)	野菜畑作	新	-	
			(1000)夏秋キュウリの長期安定生産技術の確立(H14~H16)	野菜畑作	新	県単研究	171
			(2000)トマト簡易雨よけ栽培の安定化技術の確立(H14~H16)	野菜畑作	新	県単研究	172
80	野菜	D-1-1-2 S-2-2-1 D-3-1-2	(853)寒冷地における夏秋イチゴの低コスト生産・安定供給技術の確立(H14~H16)	野菜畑作	新	-	
			(1000)県央地域(H14~H16)	野菜畑作	新	県単研究	173
			(2000)沿岸南部地域(H14~H16)	南部園芸	新	県単研究	174

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
81	野菜	D-1-1-3	(156)大規模野菜経営に対応した新作型栽培技術の開発(H12~H15) (4000)夏秋きゅうり大規模野菜生産技術の確立(H12~H15) (4100)急性萎凋症状の耕種発生要因の解明(H12~H15)	南部園芸 南部園芸 南部園芸	継 継 継	- - 単研究	175
82	野菜	D-1-1-3	(712)トマト養液栽培による周年栽培技術の確立・実証(H13~H15)	南部園芸	継	単研究	176
83	野菜	D-1-1-3	(738)雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大(H13~H15) (1000)省力技術の実証(H13~H15) (2000)安定多収技術の実証(H13~H15)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作	継 継 継	- 単研究 単研究	177 178
84	野菜	D-1-1-3	(748)東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証(H13~H15) (4000)トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証・確立(H13~H15)	南部園芸 南部園芸	継 継	- 単研究	179
85	野菜	D-1-1-3	(816)ネギの産地力強化のための低コスト・長期安定供給技術の確立(H14~H16) (1000)ネギの7月穫り作型開発と作型別適品種選定(H14~H15) (2000)ネギの省力機械化体系確立実証(H14~H15) (3000)ネギの高鮮度流通技術の確立(H14~H16) (4000)県中南部におけるねぎ主要害虫の防除体系(H14~H14) (5000)ネギ産地における流通改善方策の解明(H14~H16) (5100)流通コストの改善可能性と条件解明(H14~H16)	野菜畑作 野菜畑作 生産工学 保鲜流通技術 病理昆虫 農業経営 農業経営	新 新 新 終・新 新 新	- 令達 令達 令達 令達 令達	180 181 182 183 184
86	野菜	D-1-1-4	(157)園芸作物における養液土耕等の施設に対応した生産技術(H12~H15) (1000)いちごのベンチアップ栽培の確立(H12~H15) (1200)培養液濃度の検討(H12~H15) (1300)適品種の検討(H12~H15) (1400)栽培ベッドの保温(H14~H15) (1500)培養土の検討(H14~H15) (2000)トマトの少量土壌培地耕栽培技術の確立(H12~H15) (2100)適品種の検討(H12~H14) (2200)各種培地における栽培管理方法の検討(H12~H14) (3000)地床利用によるトマトの点滴灌水同時施肥栽培技術の開発実証(H12~H14) (4000)点滴かん水による養・水分供給技術の確立(H12~H14) (5000)養液土耕栽培での高品質生産条件の解明(H11~H14)	野菜畑作 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 南部園芸 野菜畑作 土壌作物養 保鲜流通技術	継 継 継 新 新 継 終 終 終	- - 単研究 単研究 単研究 単研究 - 単研究 単研究 単研究	185 186 187 188 189 190 191 192 193
87	野菜	D-1-2-3 L-1-2-1	(871)新肥料の肥効試験(H14~H16)	野菜畑作	新	民間委託	194
88	野菜	D-2-1-1	(163)ニューなばな「はるの輝」の前進作型の開発(H7~H14) (1000)ワカス中生優良系統の選抜(H7~H14)	野菜畑作 野菜畑作	終 終	- 令達	195
89	野菜	D-2-1-1	(744)水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証(H13~H15) (1000)優良種苗決定のための現地調査(H13~H15) (2000)連作障害対策を中心とした水田活用体系の実証(H13~H15) (3000)優良系統の培養苗利用による栽培実証(H13~H15)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 応用生物学	継 継 継 継	- 単研究 単研究 単研究	196 197 198
90	野菜	D-2-1-1	(848)果菜類における新形質品種の特性評価と利用技術の確立(H14~H16) (1000)キュウリ優良品種の選定と栽培法(H14~H16) (2000)トマト優良品種の選定と栽培法(H14~H16) (3000)ピーマン優良品種の選定と栽培法(H14~H16)	野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作 野菜畑作	新 新 新 新	- 単研究 単研究 単研究	199 200 201
91	野菜	D-2-1-1	(880)地域適応性に優れた品種の選定(H14~H16) (1000)ホウレンソウの品種選定(H14~H16) (2000)キャベツの品種選定(H14~H16) (3000)ダイコン優良品種の選定(H14~H16)	産地育成 産地育成 産地育成 産地育成	新 新 新 新	- 単研究 単研究 単研究	202 203 204
92	野菜	D-2-1-2 I-2-1-1	(165)野菜の優良栄養繁殖系品種の育成(H10~H15) (1000)サトイモの優良系統の選抜(H10~H15)	野菜畑作 野菜畑作	継 継	- 令達	205
93	野菜	D-2-1-3 L-2-1-3	(825)ウリ科作物中のダイオキシン類の吸収移行に及ぼす栽培管理方法等の影響解析(H14~H16 H14)	環境保全	終(繰上) ・新	単研究	206
94	野菜	D-2-1-3 V-2-3-2	(H14-02)トマト・ピーマンの一晚予冷技術の開発(H14~H15)	保鲜流通技術	新	令達	207
95	野菜	D-2-2-1 S-2-2-1	(828)カラシナによるほうれんそう萎凋病軽減技術の開発(H14~H16)	産地育成	新	単研究	208
96	野菜	D-4-0-0	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖(H8~H18)	野菜畑作	継	令達	209
97	花き	E-1-1-2 I-1-2-1	(884)突然変異等を利用した新形質りんどうの特性評価(H14~H17) (1000)わい性「ポラーノホワイト」の生育特性の解明(H14~H17)	花き 花き	新 新	- 単研究	210
98	花き	E-1-2-1	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立(H14~H18) (1000)種子による親株維持技術の確立(H14~H18) (2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定(H14~H18)	花き 花き 花き	新 新 新	- 単研究 単研究	211 212
99	花き	E-1-2-2 I-2-1-1	(191)りんどうの品種育成(S49~H15)	花き	継	令達	213

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
100	花き	E-1-3-1 I-2-2-1	(192)スターチス類の品種育成(H11~H15)	花き	継	令達	214
101	花き	E-1-3-1 I-2-2-1	(831)スターチス有望育成系統の栽培管理技術の確立(H14~H18)	花き	新	県単研究	215
102	花き	E-1-4-1	(832)ニュータイプ小ぎくの品種育成(H14~H18)	花き	新	令達	216
103	花き	E-1-5-1 I-2-2-1	(195)ゆりの品種育成(H5~H15)	花き	継	令達	217
104	花き	E-2-1-3	(196)寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立(H12~H16) (1000)枝物花木の寒冷地向け適品目の選定及び栽培技術の確立(H12~H16)	花き 花き	継 継	- -	
			(1100)品目選定と栽培特性(H12~H16)	花き	継	国庫助成	218
			(1200)効率的増殖法及び育苗技術の確立(H12~H16)	花き	継	国庫助成	219
			(1300)栽植方式及び早期株養成技術の解明(H12~H16)	花き	継	-	
			(1310)栽植様式と生育反応 根域制限と生育反応 株養成技術の開発(H12~H16)	花き	継	国庫助成	220
			(1320)花芽着生技術の開発(H13~H15)	花き	継	国庫助成	221
			(1400)整枝及び仕立て法の確立(H13~H15)	花き	継	-	
			(1410)越冬前の整枝法が次年度の生育に及ぼす影響 仕立て方法及び仕立て本数が切り枝品質に及ぼす影響(H13~H15)	花き 花き	継 継	国庫助成	222
			(1500)休眠特性の解明と休眠打破法、促成栽培技術の確立(H13~H15)	花き	継	-	
			(1510)切り枝類の休眠特性解明 休眠打破方法の開発(H13~H15)	花き	継	国庫助成	223
(2000)切り枝の品質保持技術の確立(H13~H16)	保鮮流通技術	継	-				
(2100)鮮度保持剤等の利用による品質保持技術の確立(H13~H16)	保鮮流通技術	継	国庫助成	224			
(2200)促成時の水揚げ改善技術の確立(H14~H15)	保鮮流通技術	新	国庫助成	225			
105	花き	E-2-1-4	(197)寒冷地型鉢花・花壇苗物生産技術の確立(H10~H14) (1000)宿根草等の鉢物化技術の確立(H10~H14) (2000)秋出荷花壇苗の生産体系の確立(H10~H14)	花き 花き 南部園芸	終 終 終	- 県単研究 県単研究	226 227
106	花き	E-2-1-4	(845)りんどう切り花用品種の鉢物化技術の確立(H14~H16)	花き	新	県単研究	228
107	花き	E-2-1-5 R-2-4-1	(199)寒冷地における法面の省力的管理・景観形成に適した植物種の選定及び低コスト増殖(H12~H14)	産地育成	終	県単研究	229
108	花き	E-2-2-1	(710)太陽光発電を利用した栽培技術の確立(H13~H17) (1000)温度管理等による花きの周年栽培体系の確立(H13~H17)	南部園芸 南部園芸	継 継	- 県単研究	230
109	花き	E-2-2-1 S-2-2-1	(820)アネモネの年内穫り作型における高品質栽培法の確立(H14~H16)	南部園芸	新	県単研究	231
110	花き	E-2-2-5 S-1-1-3	(484)県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証(一戸町小友地区)(H9~H14)	産地育成	終	-	
			(3000)花壇苗周年生産技術の確立(H9~H14)	産地育成	終	県単研究	232
111	花き	E-3-1-1	(844)りんどう栄養系品種の栽培技術の確立(H14~H16)	花き	新	県単研究	233
112	花き	E-3-1-3 L-2-2-1	(822)アレンジメントアスターの高品質安定生産の確立(H14~H16)	南部園芸	新	県単研究	234
113	花き	E-3-1-4	(841)りんどうコブ症の発生実態と原因の解明(H14~H18) (1000)発生実態と栽培条件による原因解明(H14~H18)	花き 花き	新 新	- 県単研究	235
			(2000)発生圃場の土壌及びりんどう養分吸収特性の解明(H14~H16)	土壌作物栄養	新	県単研究	236
			(3000)コブ症発現に関連する微生物・線虫及び土壌昆虫の検索(H14~H16)	病理昆虫	新	県単研究	237
114	花き	E-3-2-1	(843)りんどうの生育・生態調査(H14~H18)	花き	新	県単研究	238
115	花き	E-3-2-3	(211)りんどうの高品質促成栽培技術の確立(H10~H14)	花き	終	県単研究	239
116	花き	E-3-2-3	(865)小ぎくの作期拡大技術の確立(H14~H18)	花き	新	県単研究	240
117	花き	E-5-1-1	(746)沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立(H13~H15)	花き	継	県単研究	241
118	花き	E-6-0-0	(214)りんどう優良系統の維持増殖(S49~H17)	花き	継	令達	242
119	酪農	F-1-1-1	(230)高泌乳・高蛋白牛群に適応した飼養管理技術の確立(H10~H16)	家畜飼養	継	県単研究	243
120	酪農	F-1-2-1	(721)発育効果及び生涯生産性を高める乳用雌育成牛の飼養管理技術の確立(H13~H17)	家畜飼養	継	県単研究	244
121	酪農	F-1-2-2	(846)ロボット多回搾乳が乳用牛の繁殖機能に及ぼす影響の解明と繁殖管理技術の確立(H14~H16)	家畜飼養	新	県単研究	245
122	酪農	F-1-2-3	(232)時間制限集約放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立(H10~H14)	家畜飼養	終	県単研究	246
123	酪農	F-3-1-1 K-2-2-3	(879)地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立(H14~H16) (1000)県内酪農地帯における地域資源を活用した資源循環型酪農経営の定着方策(H14~H16)	飼料生産 農業経営	新 新	- -	
			(1100)主要酪農地帯における粗飼料生産給与と家畜飼養管理技術の実態把握(H14~H16)	農業経営	新	国庫助成	247

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
123 (続)	酪農	F-3-1-1 K-2-2-3	(2000)畑地における堆肥を高度に利用した一年生飼料作物の資源循環型粗飼料生産技術の開発(H14～H17)	飼料生産	新	-	
			(2100)一年生飼料作物の生育特性と生産性の解明(H14～H17)	飼料生産	新	国庫助成	248
			(3000)一年生飼料作物の給与と効率的な放牧を組み入れた高能力牛群飼養管理技術の確立(H14～H18)	家畜飼養	新	国庫助成	249
124	酪農	F-3-2-2	(722)ロボット搾乳とパーラー搾乳が乳腺細胞に及ぼす影響と乳房炎発生との関係(H13～H15)	家畜飼養	継	国庫助成	250
125	肉畜	G-1-1-1	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)(S62～H17)	種山畜産	継	令達	251
126	肉畜	G-1-1-1	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)(H1～H17)	種山畜産	継	令達	252
127	肉畜	G-1-1-2	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)(S45～H17)	家畜育種	継	令達	253
128	肉畜	G-1-1-2	(237)日本短角種産肉能力検定(間接法)(S48～H17)	家畜育種	継	令達	254
129	肉畜	G-1-1-4	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査(H14～H18)	種山畜産	新	国庫助成	255
130	肉畜	G-1-2-3 J-1-1-3	(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力種雄牛の作出(H14～H18)	種山畜産	新	国庫助成	256
131	肉畜	G-2-1-1	(882)超早期母子分離と放牧を取り入れた黒毛和種飼養方式の確立(H14～H16)	家畜育種	新	国庫助成	257
132	肉畜	G-2-1-2 H-4-1-3	(242)北上山地における公共放牧地の高度利用による黒毛和種肥育素牛の放牧管理技術の確立(H11～H15)	外山畜産	継	-	
			(2000)集約放牧を取り入れた黒毛和種肥育素牛の発育向上技術の開発(H11～H15)	外山畜産	継	-	
			(2100)草種構成と緩効性肥料の組み合わせによる草地生産平準化技術(H11～H15)	外山畜産	継	国庫助成	258
			(2200)適正輪換放牧方式による発育向上技術(H11～H15)	外山畜産	継	国庫助成	259
			(2300)放牧草の栄養特性に対応した補助飼料給与技術(H11～H15)	外山畜産	継	国庫助成	260
			(2400)放牧育成肥育素牛の肥育特性の解明(H12～H15)	家畜育種	継	国庫助成	261
			(3000)北上山地における黒毛和種肥育素牛育成技術の現地実証(H14～H15)	外山畜産	新	-	
(3100)黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術の現地実証と経営経済評価(H14～H15)	外山畜産	新	国庫助成	262			
(3200)黒毛和種肥育素牛の放牧育成システムの経営的評価(H13～H15)	農業経営	継	国庫助成	263			
133	肉畜	G-3-1-2	(246)「いわて短角牛」適正出荷のための肥育技術の確立(H13～H14)	家畜育種	終	国庫助成	264
134	肉畜	G-3-2-3	(248)ビタミンA制限による肥育技術の確立(H10～H15)	家畜育種	継	令達	265
135	肉畜	G-4-1-5	(854)環境・安全に配慮した岩手型豚肉生産技術の確立(H14～H18)	家畜育種	新	国庫助成	266
136	肉畜	G-5-1-1	(833)ニワトリ始原生殖細胞(PGCs)の利用に関する研究(H14～H15)	家畜育種	新	-	
				(1000)岩手地鶏PGCsの白色レグホーンへ移植した生殖系列キメラ鶏及び後代鶏調査(H14～H15)	家畜育種	新	国庫助成
137	肉畜	G-5-1-2	(720)岩手独自の交雑種鶏を活用した組み合わせ検定(H13～H15)	家畜育種	継	国庫助成	268
138	草地飼料	H-1-1-1	(253)とうもろこし市販品種の特性比較(S54～H17)	飼料生産	継	令達	269
139	草地飼料	H-1-1-1	(254)とうもろこし系統適応性検定試験(S55～H17)	飼料生産	継	国庫委託	270
140	草地飼料	H-1-1-2	(725)ソルガム市販品種の特性比較(H13～H15)	飼料生産	継	令達	271
141	草地飼料	H-1-2-3	(726)採草用牧草の播種基準の策定(H13～H15)	飼料生産	継	国庫助成	272
142	草地飼料	H-2-2-1	(257)糞尿施用とうもろこし畑の簡易診断技術の確立(H10～H14)	飼料生産	終	国庫助成	273
143	草地飼料	H-2-2-1	(861)細断型ローラーによる飼料作物の収穫調製技術(H14～H15)	飼料生産	新	国庫委託	274
144	草地飼料	H-2-2-1	(892)牧草の気象感応試験(H14～H18)	飼料生産	新	国庫助成	275
145	草地飼料	H-2-2-2	(743)ソルガムラップサイレージ調製技術(H13～H15)	飼料生産	継	令達	276
146	草地飼料	H-2-4-0	(724)被覆植物を活用した飼料畑の雑草抑制技術の確立(H13～H15)	飼料生産	継	国庫助成	277
147	草地飼料	H-4-2-1	(262)広葉樹林帯を活用した肉用牛放牧における水土保全機能の解明(H11～H15)	外山畜産	継	国庫助成	278
148	作物ハイク	I-1-1-4 C-3-1-1	(280)りんごの有望品種及び有望台木の再分化技術の確立(H12～H14)	応用生物学	終	国庫助成	279
149	作物ハイク	I-1-2-1 A-1-2-1	(801)遺伝子導入稲の耐病性評価(H14～H16)	応用生物学	新	国庫助成	280
150	作物ハイク	I-1-2-1	(809)耐病性関連遺伝子導入りんごの耐病性評価(H14～H16)	応用生物学	新	国庫助成	281
151	作物ハイク	I-2-1-1 E-1-2-1	(812)りんごの組織培養による種間雑種等の作出法(H14～H18)	応用生物学	新	国庫助成	282
152	作物ハイク	I-2-1-2 E-1-2-2	(810)りんごF1優良個体の大量増殖技術開発(H14～H18)	応用生物学	新	国庫助成	283
153	作物ハイク	I-2-1-2 E-6-0-0	(814)えぞりんごの組織培養における維持・増殖システムの確立(H14～H18)	応用生物学	新	国庫助成	284
154	作物ハイク	I-2-2-2 E-1-3-1	(813)スターチスの低コスト培養システムの確立(H14～H16)	応用生物学	新	国庫助成	285

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
155	作物ハ行ク	I-3-1-1 E-1-1-2	(811)りんどうの突然変異体の作出法(H14~H18)	応用生物学	新	県単研究	286
156	作物ハ行ク	I-3-2-1 A-1-1-2	(288)DNAマーカー利用による稲優良形質の探索及び選抜法の確立(H9~H14)	応用生物学	終	県単研究	287
157	作物ハ行ク	I-3-2-3	(818)各種病原の検出・診断技術(H14~H16)	応用生物学	新	県単研究	288
158	作物ハ行ク	I-3-2-4 E-3-1-4	(293)小ぎくのウィルスフリー化技術の確立(H12~H16)	応用生物学	継	県単研究	289
159	作物ハ行ク	I-3-2-4 C-3-3-1	(808)りんごのウィルスフリー樹の作出及び検定法の確立(H14~H16)	応用生物学	新	県単研究	290
160	作物ハ行ク	I-3-2-4 E-1-1-3 E-6-0-0	(815)りんどうのウィルスフリー化技術の確立(H14~H16)	応用生物学	新	県単研究	291
161	家畜ハ行ク	J-1-1-2 G	(864)受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討(H14~H16)	家畜工学	新	令達	292
162	家畜ハ行ク	J-1-1-3 G-2-1-5	(824)ウシ胚移植を活用した効率的双子生産技術の確立(H14~H16)	家畜工学	新	県単研究	293
163	家畜ハ行ク	J-1-3-4 F-1-1-1	(302)雌雄判別技術を利用した乳用牛群改良技術の確立(H11~H15)	家畜工学	継	県単研究	294
164	家畜ハ行ク	J-2-1-0 G-1-2-4	(303)核移植技術による優良種畜の大量生産技術の開発(H10~H15)	家畜工学	継	国庫助成	295
165	家畜ハ行ク	J-3-1-0 G-1-2-4	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解析(H7~H17)	家畜工学	継	令達	296
166	環境保全	K-1-1-1	(310)施肥窒素溶脱抑制技術の確立(H3~H14) (1000)ライシメーター試験(H3~H14)	環境保全 環境保全	終 終	- 国庫助成	297
167	環境保全	K-1-2-1 A-3-3-1	(313)農薬安全使用等啓発事業(H12~H14) (1000)防除農薬散布層の安全性確認調査(H12~H14) (1100)キュウリ及びキャベツにおける残留実態(H12~H14)	環境保全 環境保全 環境保全	終 終 終	- - 国庫助成	298
168	環境保全	K-1-2-1 A-3-3-1	(887)農薬残留対策調査(作物残留)(H14~H14) (1000)水稲におけるフェノキサニルの残留(H14~H14)	環境保全 環境保全	終・新 終・新	- 民間委託	299
169	環境保全	K-1-2-3	(315)農薬水質影響調査(H10~H15) (1000)水質影響低減技術の開発(H10~H14) (1200)種子消毒廃液処理対策技術の確立(H10~H14) (2000)育苗箱施薬による水田生態系への影響(H13~H15)	環境保全 環境保全 環境保全 環境保全	継 終 終 継	- - 国庫助成 国庫助成	300 301
170	環境保全	K-1-3-1 B-3-1-1	(316)葉たばこ栽培における還元型マルチ資材処理システムの検証(H14~H16) (3000)生分解性マルチ資材の実用性と後処理技術の確立(H14~H16)	やませ利用 やませ利用	新 新	- 令達	302
171	環境保全	K-2-1-2	(318)ロックウール脱臭装置の高機能化とドレインの環境保全的循環技術(H12~H14)	飼料生産	終	国庫委託	303
172	環境保全	K-2-1-4 A-3-3-2 L-3-2-2	(320)環境保全型有機質資源施用基準設定調査(H10~H14) (1000)有機物連用試験(H10~H14) (1100)水稲の有機物施用基準設定調査(H10~H14) (1110)県央・県南地域(H10~H14) (1120)県北地域(H9~H14) (1200)畑地の有機物施用基準設定調査(H10~H14) (1210)県央・県南地域(H10~H14) (1220)県北地域(H9~H14) (2000)土壌機能実態モニタリング調査(H10~H14) (3000)要素反応と施肥改善(H10~H14) (3100)3要素試験(H10~H14)	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養 営農技術 土壌作物栄養 土壌作物栄養 営農技術 土壌作物栄養 営農技術 土壌作物栄養 営農技術	終 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終	- - - 国庫助成 国庫助成 - 国庫助成 国庫助成 - 国庫助成 - 国庫助成	304 305 306 307 308 309
173	環境保全	K-2-2-1 F-2-1-2	(847)奥中山地域における液状コンポスト調整利用システムの確立(H14~H15) (1000)乳牛ふん尿の液状コンポスト好氣的調整システムの確立(H14~H15) (2000)草地や飼料作物を対象とした液状コンポスト利用技術の確立(H14~H16)	飼料生産 飼料生産 営農技術	新 新 新	- 県単研究 県単研究	310 311
174	環境保全	K-2-3-2	(723)戻し堆肥等の敷き料利用システムの確立(H13~H14)	家畜育種	終	県単研究	312
175	環境保全	K-3-1-2	(522)家畜排泄物等の有機質資源を活用した特別栽培農産物生産技術体系の確立(H14~H18) (1000)農業分野における窒素収支の推定と解析(H14~H14) (2000)特別栽培農産物栽培管理方式の策定(H14~H16) (3000)有機農産物の生産条件の解明(H14~H15) (4000)岩手県内生産主要堆肥の成分特性にもとづく化学肥料代替技術の確立(H14~H16) (5000)マニユアスプレッダー利用による地域内有機物の急速堆肥化技術(H14~H15)	環境保全 環境保全 環境保全 土壌作物栄養 土壌作物栄養	終・新 新 新 新 新	県単研究 県単研究 県単研究 県単研究 県単研究	313 314 315 316 317

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
191	土壌作物	L-2-2-3 K-2-2-2	(324)良質堆肥の有効利用技術の確立(H9~H14) (1000)畜産由来資源の特性解明と有効活用技術の確立(H9~H14) (1300)家畜ふん堆肥のデータベース作成(H9~H14)	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養	終 終 終	- - 令達	347
192	土壌作物	L-2-3-1	(873)水田蓄積養分利用による減肥技術(H14~H15) (1000)乾土効果による土壌窒素無機化量の推定(H14~H15) (2000)土壌の可給態ケイ酸の評価法の適応性検討(H14~H15)	土壌作物栄養 土壌作物栄養 土壌作物栄養	新 新 新	- 国庫助成 国庫助成	348 349
193	病害虫	M-1-1-1	(372)新奇侵入病害虫の診断法と発生生態の解明(H9~H17) (1000)O(H9~H17)	病理昆虫 病理昆虫	継 継	国庫助成 -	350
194	病害虫	M-1-1-1 A-3-2-3	(373)斑点米カメムシの発生生態解明と防除法の確立(H12~H14)	病理昆虫	終	国庫助成	351
195	病害虫	M-1-1-1 D-1-2-2	(716)中山間地域特産物及び花き類の新奇病害虫の生態把握及び防除法技術の開発(H13~H15) (1000)レタスにおけるナモグリバエの発生生態と防除法の確立(H13~H15)	営農技術 営農技術	継 継	- 県単研究	352
196	病害虫	M-1-1-2 D-1-2-2	(731)なす科野菜における青枯病総合防除法技術の確立(H13~H15)	病理昆虫	継	国庫助成	353
197	病害虫	M-1-1-2 C-1-2-3	(733)リング根頭がんしゅ病の発生生態と診断技術(H13~H15)	病理昆虫	継	県単研究	354
198	病害虫	M-1-1-2 E-3-1-4	(734)キク矮化ウイルスの遺伝子診断法の確立(H13~H14)	病理昆虫	終	県単研究	355
199	病害虫	M-1-1-3 A-3-2-3	(382)薬剤耐性菌検定(H12~H15) (1000)イネもみ枯細菌病菌(H12~H15)	病理昆虫 病理昆虫	継 継	- 国庫助成	356
200	病害虫	M-1-1-3 C-1-2-3	(893)薬剤抵抗性発現害虫の実態と対策(H13~H15) (1000)りんごのハダニ類(H13~H15)	病理昆虫 病理昆虫	継 継	- 国庫助成	357
201	病害虫	M-1-2-1 C-1-2-3	(735)リング炭そ病の発生予察技術の開発(H13~H15)	病理昆虫	継	国庫助成	358
202	病害虫	M-1-2-2 A-3-2-3 X-1-3-2	(388)イネいもち病の省力的予察法の確立及び広域の実証(H12~H15 H14)	病理昆虫	終線上	国庫助成	359
203	病害虫	M-1-2-2 E-3-1-4 X-1-3-2	(389)野菜花き病害虫の発生・防除時期予測システムの開発と実証(H10~H14) (1000)りんどう病害虫防除体系の確立と実証(H10~H14)	病理昆虫 病理昆虫	終 終	- 国庫助成	360
204	病害虫	M-1-2-2 X-1-2-1 X-1-2-2	(752)害虫発生予察支援システムの開発(H13~H17)	営農技術	継	県単研究	361
205	病害虫	M-2-1-1 B-2-2-2	(392)あずきウイルス病抵抗性検定試験(S53~H17)	病理昆虫	継	国庫委託	362
206	病害虫	M-2-1-3 D-1-2-2	(398)東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の確立(H10~H14) (1000)キャベツ根こぶ病菌密度の推移と発病度の実態解析(H10~H14) (2000)土壌評価に基づく対抗植物を利用したキャベツ根こぶ病発病抑制効果の評価(H10~H14) (3000)キャベツのコナガ寄生蜂導入条件の策定(H10~H14) (4000)検定植物を用いた根こぶ病の簡易菌密度推定法の確立(H10~H14) (5000)CRダイコンを組み込んだ転作体系による減農薬栽培技術の実証(H10~H14) (6000)エンバクを組み込んだ輪作体系による減農薬栽培技術の実証(H10~H14) (7000)短期輪作による環境保全型根こぶ病発生抑止技術の実証と経営的評価(H14~H14)	営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 営農技術 農業経営	終 終 終 終 終 終 終・新	- 国庫助成 国庫助成 国庫助成 国庫助成 国庫助成 国庫助成	363 364 365 366 367 368 369
207	病害虫	M-3-1-1 C-1-2-3	(838)りんご紫紋羽病の発生実態と新たな防除法の開発(H14~H16) (1000)県内における紫紋羽病の発生実態と病菌の特性解明(H14~H16)	病理昆虫 病理昆虫	新 新	- 県単研究	370
208	病害虫	M-3-1-2	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成(H13~H14) (1000)水稲種子消毒剤の大量種子消毒適用性試験(H13~H14) (1100)テクリード水和剤(H13~H14) (2000)県北地域(H9~H17)	病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫 営農技術	終 終 終 継	- 民間委託 民間委託	371 372
209	病害虫	M-3-1-2 E-3-1-4	(842)りんどうの萎縮症状の原因解明(H14~H16)	病理昆虫	新	県単研究	373
210	病害虫	M-3-2-1 A-3-2-3	(715)病害虫総合防除法技術の開発(H13~H17) (1000)水稲初期害虫の隔年防除法技術の確立(H13~H17)	病理昆虫 病理昆虫	継 継	- 国庫助成	374
211	病害虫	M-3-2-1 D-1-2-2	(730)きゅうりにおける総合的病害防除法技術の確立(H13~H15)	病理昆虫	継	国庫助成	375

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
221 (続)	生産システム	O-2-2-1 A-3-1-1 N-4-2-2	(2120)ロングマット苗移植圃場における病害虫発生調査(H11～H14)	病理昆虫	終	-	
			(2200)ロングマット苗の貯留・運搬・補給技術の開発(H11～H14)	生産工学 水田作 生産工学	終 終 終	国庫助成 国庫助成 -	406 407
			(2300)ロングマット苗の移植精度向上技術と初期栽培管理技術の開発(H11～H14)	生産工学	終	-	
			(2310)ロングマット水耕苗の初期生育管理技術(H11～H14)	病理昆虫 生産工学 生産工学	終 終 終	- - 国庫助成	408
222	農村整備	P-2-1-2	(462)重機の走行がほ場整備後の土壌の均一性に与える影響の解明(H11～H15)	生産工学	継	令達	409
223	農村整備	P-2-1-2	(732)傾斜地畑の土壌流亡防止工法の確立(H13～H15)	生産工学	継	令達	410
224	農村整備	P-2-2-1 A-3-1-3	(895)輪換畑ほ場における暗渠排水管を利用した地下かんがい及び排水技術の確立(H14～H16)	生産工学	新	令達	411
225	農村整備	P-2-2-2 A-3-1-3	(465)北東北重粘土地帯における暗渠排水技術の確立(H12～H14)	生産工学 生産工学 生産工学 生産工学	終 終 終 終	- 国庫助成 国庫助成 国庫助成	412 413 414
			(1000)簡易で効果的な暗渠排水技術の確立(H12～H14)				
			(2000)新暗渠疎水材の実用化(H12～H14)				
226	農村整備	P-3-1-1 A-3-3-1	(800)環境に配慮した農村整備手法の確立(H14～H16)	生産工学	新	県単研究	415
227	農村整備	P-3-1-1 A-3-1-2	(852)寒冷地におけるグラウンドカバープランツの動力吹付緑化工法の実証(H14～H16)	生産工学	新	令達	416
228	地域活性化	R-2-2-2	(702)中山間地域等直接支払制度の活用方策の解明(H13～H15 H14)	農業経営	終線上	県単研究	417
229	やませ利用	S-1-1-2 D-3-1-2 L-2-2-2	(171)大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立(H13～H15)	やませ利用	継	-	
			(1000)継続実施可能な有機物施用方法の検索(H13～H15)	やませ利用 やませ利用 やませ利用	継 継 継	- - -	418 419
			(1100)畜産由来有機物利用低コスト土壌改良効果の確認(H13～H15)				
230	やませ利用	S-1-1-2	(482)畑地かんがい地帯における野菜・花き等を組み入れた高収益モデル実証(H13～H15)	営農技術	継	県単研究	420
231	やませ利用	S-2-2-1 D-3-1-2	(713)雨よけほうれんそう大型経営育成のための技術確立(H10～H14)	営農技術	終	-	
			(1000)ほうれんそう収穫機械の開発改良(H10～H14)	営農技術	終	-	
			(1100)遮光方法の検討(H13～H15)	産地育成	継	県単研究	421
			(1200)かん水方法の検討(H13～H15)	産地育成	継	県単研究	422
			(1300)効率的生産のための栽培技術検討(H13～H15)	産地育成	継	県単研究	423
232	生物機能	T-1-1-3	(499)天蚕の優良系統育成(H1～H17 H14)	病理昆虫	終線上	令達	425
233	生物機能	T-2-1-2	(415)土着天敵群の実態解明とその利用技術(H12～H15)	病理昆虫	継	-	
			(2000)ピーマン害虫に対する総合防除技術の確立(H12～H15)	病理昆虫	継	県単研究	426
234	生物機能	T-2-1-2	(502)人工飼育昆虫の利用技術(H12～H14)	病理昆虫	終	県単研究	427
235	生物機能	T-3-1-3	(742)有用拮抗微生物の探索と評価(H13～H15)	病理昆虫	継	-	
			(2000)昆虫病原ウィルスの利用技術(H13～H15)	病理昆虫	継	県単研究	428
236	有機農業	U-1-2-2 D-2-1-3	(714)キャベツにおける無農薬・無化学肥料栽培技術(H13～H15)	環境保全	継	令達	429
237	有機農業	U-1-2-3 D-1-2-2 M-3-2-1	(521)環境保全型農業の総合組立(H12～H14)	環境保全	終	-	
			(1000)機能水による野菜の病害に対する抑制効果の実証(H12～H14)	環境保全	終	国庫委託	430
238	有機農業	U-1-3-2 A-3-3-1	(523)水稲における環境保全型農業の総合組立(H13～H15)	環境保全	継	-	
			(2000)水稲の減農薬栽培技術の確立(H13～H15)	環境保全	継	-	
			(2100)育苗期における減農薬体系の組立(H13～H15)	環境保全	継	国庫助成	431
239	保鮮流通	V-1-2-1 D-3-1-1	(530)各種農産物の品質評価指標の解明(H13～H15)	保鮮流通技術	継	-	
240	保鮮流通	V-1-2-2 D-2-1-3 L-1-1-3	(531)農産物の各種栄養成分含量と土壌環境条件との関係の解明(H10～H14)	保鮮流通技術	終	-	
			(1000)ほうれんそう内部品質向上のための有機物施用等土壌管理技術の確立(H10～H14)	保鮮流通技術	終	-	
			(1100)肥培管理条件・気象条件等によるほうれんそう内部品質の変化(H10～H14)	保鮮流通技術	終	国庫助成	434

小課題No	研究分野	推進構想	研究課題名(課題構成)	担当研究室	実施区分	予算区分	実施No
241	保鮮流通	V-2-1-1 D-2-1-1	(745)枝豆新品種の鮮度保持技術の確立(H13～H15)	保鮮流通技術	継	令達	435
242	保鮮流通	V-2-1-2 C-2-3-2	(874)西洋なし早期出荷のための予冷・追熟技術の開発(H14～H16)	保鮮流通技術	新	県単研究	436
243	保鮮流通	V-2-3-1	(883)通いコンテナ利用における高鮮度保持技術の確立(H14～H16)	保鮮流通技術	新	県単研究	437
244	農産物加工	W-1-2-2 C-2-3-1	(881)地域特産物加工品による沢ごとオリジナル商品の開発(H14～H16) (1000)「小枝柿」の脱渋技術の確立(H14～H16) (2000)特産作物ハトムギを利用した新規加工品の開発(H14～H16)	保鮮流通技術 保鮮流通技術 保鮮流通技術	新 新 新	- 県単研究 県単研究	438 439
245	農産物加工	W-1-2-2	(996)餅加工品の硬化抑制技術の開発(H14～H14)	保鮮流通技術	終・新	令達	440
246	農産物加工	W-2-1-0	(886)農産物加工品の品質評価法の確立(H13～H14) (1000)地域推奨品流通適正化調査分析(H13～H14)	保鮮流通技術 保鮮流通技術	終 終	- 令達	441
247	農産物加工	W-3-0-0	(548)加工工房指導業務	保鮮流通技術	継	県単公園	442
248	情報利用	X-1-1-1 B-3-2-3	(855)気象情報を活用した麦収穫適期判定システムの開発(H14～H16)	営農技術	新	県単研究	443
249	情報利用	X-1-1-1	(885)農業気象情報の管理と活用技術の開発(H14～H16) (1000)農業気象観測及び微気象の降霜、地温等の推測手法の開発(H14～H16)	環境保全 環境保全	新 新	- 県単研究	444
250	情報利用	X-3-2-1 N-1-1-0	(751)生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システムの開発(H13～H15) (1000)生産及び流通経済環境の変化に対応した農業経営設計システムの開発(H13～H15) (2000)作物生育適地評価システム開発(H13～H15) (3000)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発(H13～H15)	農業経営 農業経営 土壌作物栄養 営農技術	継 継 継 継	- 国庫委託 国庫委託 国庫委託	445 446 447

(3) 要望課題の措置

平成 15 年度に実施を要望する試験研究課題の検討結果

措置区分 A=平成 15 年度実施
B=現在実施中
C=既知見あり
D=次年度実施できない

検討部会	要望 No	要望課題名	要望 機関名	要望課題の内容	措置 区分	担 当 研究室
農産 01	39	水稻種子の病害保菌	種苗センター	(1) 水稻種子が病原菌を保菌している場合の育苗期、本田での発病関係の解明(いもち病)	C	病理昆虫 水田作
				(2) その防除対策効果の解明	B C	
農産 02	51	いもち病菌の保菌初率と育苗期・本田での発病の関係の解明	農産園芸課	(1) 検査合格種子におけるいもち病保菌程度と、育苗期、本田におけるいもち病発病との関係を明らかにする	B C	病理昆虫 水田作
農産 03	40	水稻種子の比重選別機械の能力と塩水選の有無	種苗センター	(1) 比重選別機械で精選精度を向上させた種子モミでの塩水選実施の有無 (2) 特に消毒種子を塩水選した場合の効果と薬剤流失の解明	C	病理昆虫 水田作
農産 04	52	水稻消毒済み種子における塩水選の要否の判断指標の確立	農産園芸課	比重選別機精選種子における塩水選の必要性の検討	C	病理昆虫 水田作
園芸畑作 01	28	甲子柿の収穫前落果の発生軽減技術の確立	釜石農業改良普及センター	(1) 収穫 1 ヶ月前から発生する落果の発生原因の解明および発生軽減技術の開発	D	果樹
園芸畑作 02	38	おうとうにおける安定生産技術の開発	二戸農業改良普及センター	(1) 佐藤錦(コルト台木)の樹勢調節対策の検討	C	果樹
				(2) 実用性のあるおうとうわい性台木の検索	A	
園芸畑作 03	41	ラ・フランスの樹上追熟の現地実証試験	石鳥谷認定農業者連絡協議会	ラ・フランスの樹上追熟のための散布薬剤・散布時期・散布濃度が当地域の気象条件に適した樹上追熟技術の確立	D	果樹
園芸畑作 04	22	耐水性の強い土地利用型農作物の検索・検討	一関農業改良普及センター	一関遊水地内での作付けに適した湿潤且つ冠水被害に耐性ある土地利用型農作物の検索・検討	D	野菜畑作
園芸畑作 05	34	雨よけトマトのかん水施肥技術の高度省力化	二戸農業改良普及センター	雨よけトマト栽培の点滴かん水装置の利用によるかん水施肥技術の確立と全自動化	D	野菜畑作
園芸畑作 06	42	大豆の新品種及び奨励品種の拡大	前沢町認定農業者協議会	(1) 機械体系の対応出来る品種 (2) 脱粒の少ない品種 (3) 何に加工すれば適しているか判る品種 (4) 他県の奨励品種でも良いものは奨励品種に出来ないものか	B	野菜畑作
園芸畑作 07	18	りんどうの除草体系の確立	花巻農業改良普及センター	(1) 除草剤のりんどうへの適用拡大に向けた取り組みと茎葉処理剤と土壌処理剤の組み合わせによる省力的除草体系の確立	A	花き
				(2) 除草剤以外の除草技術(例えばシート類による通路被覆)の開発	D	
園芸畑作 08	24	小ぎくの「白さび病」防除対策の確立と開花調節技術の開発	千厩農業改良普及センター	(1) 「白さび病」抵抗性品種の開発	D	花き
				(2) 「白さび病」防除対策	C	
				ア 耕種的な「白さび病」軽減技術の開発	D	
				イ 「白さび病」に効果の高い粒剤の開発・普及	D	
(1) 開花調節技術の開発・普及	D	花き				
ア 開花促進剤の開発・普及	D					
イ 耕種的な開花調節技術(エスレル処理、電照以外)の開発	B					

検討部会	要望No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室
園芸畑作 09	27	トルコギキョウの開花調節技術	遠野農業改良普及センター	トルコギキョウの開花調節技術として短日処理技術があるが、トンネル被覆による高温ロゼットの問題が発生している。簡易な開花調節技術として植調剤(GABA、エスレル等)利用技術について検討して欲しい。	B D	花き
園芸畑作 10	29	りんどうの花芽分化及び開花期と積算温度の関係解明	宮古農業改良普及センター	「イーハトーヴォ」以外の品種での有効積算温度と開花期の関係及び、花芽分化期と積算温度の関係解明	D	花き
園芸畑作 11	57	りんどう・小ぎくの県オリジナル品種の栽培体系の確立	農産園芸課	(1) りんどうの県オリジナル品種別養分吸収特性の把握 (2) 小ぎくの県オリジナル品種別養分吸収特性の把握 (3) りんどう及び小ぎくの県オリジナル品種別病害虫罹病特性の把握 (4) りんどう及び小ぎくの県オリジナル品種の作期ごとの適正な施肥体系及び病害虫防除体系の確立 (5) りんどうの作期ごとの病害虫防除体系の確立 (6) 小ぎくの作期ごとの病害虫防除体系の確立	A C C D C B	土壌作物栄養 専門技術員室 病理昆虫 土壌作物栄養 病理昆虫 病理昆虫 病理昆虫
園芸畑作 12	48	きゅうりハウス半促成、抑制用品種の選抜	全農岩手県本部	(1) 主枝雌花着生率、低温伸長性の優れるもの (2) A品率の高いもの (3) 耐病性のあるもの (4) 良食味のもの	B	野菜畑作
園芸畑作 13	21	電解水による減農薬栽培体系の研究	北上農業改良普及センター	(1) 電解水を利用して殺菌剤の散布回数を減らす体系の確立。 (2) 複合交信攪乱剤との組み合わせによる、総散布回数を減らした防除体系の確立。	D	環境保全
園芸畑作 14	35	野菜生産における化学農薬散布回数の基準化	二戸農業改良普及センター	各品目毎の農薬散布回数の県基準の明確化	B	環境保全
園芸畑作 15	49	雨よけほうれんそうの硝酸態窒素含量の低減栽培法	全農岩手県本部	土壌残存窒素量と施肥法 有機質肥料の施用、化学肥料低減	B	土壌作物栄養
園芸畑作 16	56	消費者ニーズに対応した野菜の内部品質向上技術の確立	農産園芸課	(1) 重点推進品目の内部品質の分析(硝酸態窒素等) (2) 内部品質と栽培技術の関連分析 (3) 内部品質向上のための栽培技術の確立	B A A	保鮮流通技術 土壌作物栄養
園芸畑作 17	15	葉菜類の収穫物に残留する硝酸態窒素抑制栽培法の確立	盛岡農業改良普及センター	(1) ほうれんそう、キャベツの作期別残留硝酸態窒素の状況把握 (2) 作物体の残留硝酸態窒素調査方法(時期・部位)の統一と基準作成 (3) 硝酸態窒素を基準以下で栽培する施肥法の確立	B B B	土壌作物栄養 保鮮流通技術 土壌作物栄養
園芸畑作 18	16	りんどうの容器栽培に適する培養土の組成検索	盛岡農業改良普及センター	りんどう容器栽培に適した生育良好、軽量、安価な培養土の検索	A	土壌作物栄養
園芸畑作 19	17	果樹における施肥体系の改訂	盛岡農業改良普及センター	(1) 現在の春基肥体型と異なる福島山形等の秋施肥体型の確立 (2) 土壌富化成分(リン酸、石灰等)に応じた減肥基準	A D	土壌作物栄養
園芸畑作 20	20	たい肥の投入による大豆の豆腐加工適性への影響	花巻農業改良普及センター	(1) たい肥の連用が大豆のタンパク質含量、脂肪分、灰分、糖含量に与える影響 (2) 栽培条件(追肥の有無、土壌条件等)の違いが豆腐加工適性に与える影響	B	野菜畑作

検討部会	要望No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室
園芸畑作 21	31	液状コンポストの土地利用型野菜畑への施用技術の確立	二戸農業改良普及センター	液状コンポストの土地利用型野菜（レタス、キャベツ、スイートコーン）への肥効、作物・作型別適正施用量、環境負荷軽減施用技術等を確立すること	D	営農技術 産地育成 土壌作物栄養
園芸畑作 22	26	ヤーコンの長期貯蔵法の開発	大船渡農業改良普及センター	(1) 貯蔵中の腐敗発生原因の解明・貯蔵法、貯蔵温度等の条件と腐敗発生の関係 (2) 貯蔵法の開発・洗浄、キリッパ方法の解明・栽培条件と貯蔵性の解明	A	保鮮流通技術
園芸畑作 23	5	りんごカメムシ類の発生生態と効率的防除法の確立	農業普及技術課	重点加害（防除）時期の解明 「さんさ」を好む原因の解明 生産現場でできる防除時期および防除要否判断基準の確立	A	病理昆虫
園芸畑作 24	23	果樹園で働く女性に優しい病虫害防除指針の作成	一関農業改良普及センター	りんご園で働く作業者が、より快適に管理作業に従事できるような農薬や剤型の選択指針の作成 (1) 安全な農薬（毒性）の選定 (2) りんご植物体との接触による人体付着量や吸入量 (3) 管理作業者の安全作業方法	A C D	病理昆虫
園芸畑作 25	32	リンドウ褐斑病の発生生態と防除対策	二戸農業改良普及センター	(1) リンドウ褐斑病の発生生態の解明 (2) 発生生態に基づいた効果的な防除対策の確立	C D	病理昆虫
園芸畑作 26	33	岩手県におけるトマト重要害虫、アザミウマ類の薬剤抵抗性と感受性	二戸農業改良普及センター	(1) 重要害虫であるアザミウマ類の薬剤抵抗性と感受性 (2) 各生育ステージにおける主要薬剤の薬剤感受性試験	D	病理昆虫
園芸畑作 27	36	環境に優しいトマト栽培技術の確立	二戸農業改良普及センター	葉かび病抵抗性品種を利用した総合的減農薬栽培技術体系の確立	C	病理昆虫
園芸畑作 28	47	夏どりレタスの生産安定技術の確立	全農岩手県本部	(1) 優良品種の選定 良食味、耐病性、高単収の7月どり品種の早急な選定 (2) 高冷地レタス7月どり作型安定生産技術の開発 腐敗病の防除法、栽培法(マルチ、成畦、栽植距離等)の総合的技術の検討	A	産地育成 営農技術 病理昆虫
園芸畑作 29	37	レタス腐敗病に対する総合防除技術の確立	二戸農業改良普及センター	(1) 腐敗病に強い品種の選定 商品性のある耐病性品種の選定 19年度まで (2) 腐敗病に対する効率的な薬剤防除体系の確立 最も効果の高い薬剤防除体系確立 18年度まで (3) 腐敗病に対する抗菌マルチの効果判定 耕種の防除技術として検討 16年度まで (4) 雨よけによる腐敗病の発病抑制実証と簡易雨よけシステムの開発 降雨防止対策による発病抑制効果の実証と簡易降雨防止システムの開発 18年度まで	A	産地育成 営農技術 病理昆虫
園芸畑作 30	55	レタス腐敗病対策技術の確立	農産園芸課	(1) 腐敗病の発生要因の解明 病原菌、土壌条件、栽培条件等 16年度まで (2) 腐敗病防止対策技術の実証試験 品種比較、土壌改良、防除、排水対策 16年度まで (3) 腐敗病対策技術の確立 16年度まで	A	産地育成 営農技術 病理昆虫

検討部会	要望No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室
園芸畑作 31	53	ホップ灰色かび病防除薬剤の農薬登録促進に向けた試験の実施	農産園芸課	ホップ灰色かび病防除薬剤の農薬登録促進を図るための効果・残留試験	A	病理昆虫 環境保全
園芸畑作 32	19	雑穀（ヒエ、アワ、キビ）の品種及び栽培条件の違いが機能性成分量に与える影響	花巻農業改良普及センター	(1) ヒエ、アワ、イナキビの機能性成分量の品種間差の解明 (2) 畑作と水田作等栽培法の違いがヒエとイナキビの機能性成分量に与える影響の解明	A B	保鮮流通技術 やませ利用
園芸畑作 33	14	りんごの散水氷結法と多目的かん水技術の確立について	二戸農村整備事務所	(1) 散水氷結法による防霜の確立 (2) 多目的かん水技術の確立 (3) 揺動方式スプリンクラーによる防霜技術の検討と開発	C	専門技術員室
畜産 01	1	食品廃棄物の再生利用における技術的課題の解決	流通課	食品廃棄物の肥料化・飼料化及びその利用技術の開発	A B C	家畜育種 専門技術員室 保鮮流通技術
畜産 02	10	ほ乳ロボットの活用方法及び多回ほ乳による育成方法の検討	畜産課	(1) ほ乳ロボットの活用方法の確立 (2) ほ乳ロボットを活用した多回ほ乳による育成方法の確立	A	家畜飼養
畜産 03	46	ほ乳ロボットを応用した省力管理技術の確立	全農岩手県本部	(1) ほ乳ロボット活用技術の確立と実証展示 (2) 搾乳ロボット、自動給餌システムに加え省力化システムの一環としてほ乳作業の省力化に取り組む	A	家畜飼養
畜産 04	9	自給飼料を基幹とした生産技術体系の確立	畜産課	(1) 寒冷地における省力飼料生産技術体系の確立 (2) 自給飼料多給型家畜飼養技術体系の確立	A B	飼料生産 家畜育種 農業経営
畜産 05	12	たい肥腐熟促進剤等の効果の検討	久慈地方振興局農政部	微生物資材等各種たい肥添加資材の効果検討（施用効果の整理と経費、効果発行条件の把握） シリカブラックの添加効果検討（たい肥の物性等の変化、作物生産への効果、珪酸濃度の変化とその効果）	D	営農技術 飼料生産 土壌作物栄養
総合 01	44	過去に県内で発生した農業気象災害と技術対応のデータベース化	岩手県農業共済組合連合会	過去に発生した農業気象災害発生状況、技術対策、優良事例等のデータベース化	D	企画情報室 専門技術員室
総合 02	45	航空写真を利用したほ場情報等の整備	岩手県農業共済組合連合会	航空写真を利用したほ場別の作物作付情報、災害発生等のマップ化と関係機関・団体での情報共有化	D	企画情報室 土壌作物栄養 病理昆虫
総合 03	2	地域ぐるみ農業推進のための収益配分モデルの開発	農業振興課	(1) 特定農業法人等、地域ぐるみ農業組織における収益配分方式の解明 (2) 地域ぐるみ農業組織における収益配分モデルの開発	B	農業経営
総合 04	3	農家民宿開業の条件	農業振興課	(1) 都市住民のニーズ調査・民泊の実態分析 (2) 先進地に見る農家民宿成功の要因分析 (3) 農家民宿の経営指標	D <small>財政課 査定による</small>	農業経営
総合 05	4	農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針に掲げる指標の点検について	農業振興課	(1) 今後の農業情勢の展望を踏まえた基本方針に掲げる所得目標、営農類型、生産方式等のあり方の検討。 (2) 基本方針に掲げる所得目標確保のための営農類型として農産加工部門の位置付けの検討	D	農業経営
総合 06	8	IT（情報技術）活用による新たな生産流通システムの導入手法の確立	農業普及技術課	産地直売施設を対象にIT活用による生産流通システムのモデル実証を行いこのシステムの県内普及性について検討する。	A	農業経営

検討部会	要望No	要望課題名	要望機関名	要望課題の内容	措置区分	担当研究室
総合07	54	野菜作経営における労力支援体制の確立	農産園芸課	(1) 農協等の関係機関が果たすべき役割等の解明、ヘルパーを導入するための経営条件と導入効果 (2) 被雇用者・雇用者双方の求める条件、品目別条件等の解明 (3) ヘルパーの導入による経営拡大モデル、労力支援マニュアル等の作成	B	農業経営
総合08	50	岩手県内農耕地土壌のカドミウム含量の精査と農作物によるカドミウム吸収の実態及びその吸収軽減対策の確立	全農岩手県本部	(1) 県独自に県内耕地土壌のカドミウム濃度の精査 (2) 各作物に対する実用性の高いカドミウム吸収軽減対策の確立	A	環境保全
総合09	7	農作物中カドミウム濃度の低減化技術の確立	農業普及技術課	(1) 玄米中カドミウム濃度の耕種的低減技術の確立 (2) 水稲以外の食用農産物中のカドミウム濃度の実態把握と低減化技術の確立	A	環境保全
総合10	11	病害の発生から見た畑かん用水の安全性について	農村振興課	畑地帯総合整備事業等で整備した畑かん用水の病害の発生から見た安全性について確認する。対象地区、用水は(略)	C D	病理昆虫 環境保全
総合11	13	富栄養化が懸念されるダム等の水質汚濁防止対策と水質浄化法の確立について	二戸農村整備事務所	(1) ダム湖における栄養塩類収支の把握 (2) 土壌流出対策の確立 (3) ダム湖水を作物に散布した場合の影響調査	B B C A	環境保全 生産工学 病理昆虫 環境保全技術
総合12	25	畑地かんがい整備事業地区におけるかんがい水の利用について	千厩農業改良普及センター	(1) 使用の可否の検討 (2) 使用不可の際の対処法 ア 野菜へのかん水 イ 葉面散布 ウ 薬剤散布用水 エ 菌床しいたけへの散水 オ 家畜の飲用	C D C	病理昆虫 企画情報室 専門技術員室 飼料生産
総合13	6	内分泌攪乱作用を有する疑いのある農薬代替技術の確立	農業普及技術課	内分泌攪乱作用を有する疑いのある農薬代替技術の確立	A B D	病理昆虫
総合14	30	岩泉町、田野畑村の堆肥工場生産された堆肥の使用方法について	宮古農業改良普及センター岩泉地域普及所	(1) 外部機関の指導による堆肥施用量について実証・検討が必要である。 (2) 上記に関連して、全面施用、溝施用等の作物ごとの検討が必要である。	C	専門技術員室
総合15	45	「とまと」の粕漬けの開発	九戸村認定農業者連絡協議会	生食用「とまと」の粕漬け方法の開発	C	専門技術員室

4 共同研究の推進

(1) 地域基幹農業技術体系化促進研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	主査研究室
東北地域における環境保全型農業を基幹とした重要野菜の安定生産技術	福島農試	10～14	キャベツ根こぶ病を対象とした耕種的対策を含めた総合防除による栽培管理技術の確立	営農技術
寒冷地北部地域における超省力水稲生産技術と地域営農システム	青森農試 秋田農試 宮城農セ	11～14	寒冷地北部地域の気象条件下での水稲の直播栽培技術及び同技術を導入した地域営農システムの確立	水田作
ロングマット苗移植・不耕起乾田直播を導入した省力・低コスト生産技術	長野農総試 埼玉農総研 茨城農総セ	11～14	水稲のロングマット苗移植・不耕起乾田直播技術を導入した低コスト高生産性水田営農体系を確立	生産工学
不耕起・無中耕・無培土栽培を基幹とした大豆の超省力安定栽培技術	栃木農試 愛知農総試	11～15	不耕起・無中耕・無培土技術を中心とした超省力栽培体系の確立による転換畑大豆作の規模拡大	野菜畑作
中山間地域における産地マーケティングに基づく特産的高付加価値農産物生産技術	青森畑園試 秋田農試	11～15	地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	農業経営
市場評価向上を目指した黒毛和種肥育素牛の集約放牧技術	北海道畜試 青森畜試 福島畜試	11～15	放牧肥育素牛の発育改善、肥育成績向上のための技術対策	外山畜産
新素材新省力技術を基幹とした高品質・値頃感りんごの生産技術	青森りんご試 山形園試 長野果樹試	12～16	食味本位の果実を安定して省力的に生産・供給する技術の確立	果樹
寒冷地における立毛間播種機利用による麦・大豆輪作技術の確立	宮城古川農試 山形農試	13～17	東北部地域での立毛間播種機利用による小麦・大豆輪作技術の確立	生産工学
地域資源活用による乳牛の生涯生産性向上に向けた飼養技術の確立	北海道畜試 青森畜試 秋田畜試 宮城畜試 福島畜試	14～18	資源循環型の高品質な自給粗飼料生産技術、高能力牛の飼養管理技術の確立	飼料生産

(2) 先端技術等地域実用化研究促進事業

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
優良種畜の安定的大量生産技術の開発	北海道畜試 山梨酪農試 兵庫中央農セ 広島畜技セ 鳥根畜試 徳島畜試 熊本農研セ	10～15	高能力牛胚の大量生産や家畜改良における世代間隔短縮のための核移植技術の開発	家畜工学
りんごわい化栽培における省力・安定生産のためのJM台木利用・早期成園化技術の開発	秋田果樹試 宮城農・園総合研 福島果樹試 長野果樹試	11～15	挿し木繁殖性に優れ、高品質果実生産が期待できるJM系わい性台木を利用した低樹高栽培法の確立	果樹
寒冷地における枝物花木類の栽培技術体系の確立	山形園試 福島農試 鳥取園試	12～16	寒冷地に適した露地向け花き品目である枝物花木類の栽培技術の確立	花き
大区画水田における低コスト・効果的暗渠排水による汎用化技術の確立	千葉農試 茨城農業総合セ 埼玉農試	12～14	北東部地方における汎用化水田のための簡易で効果的な暗渠排水技術の確立	生産工学

(3) 21世紀型農業経営モデル実証試験

課 題 名	振興局 (市町村名)	研 究 期 間	実 証 研 究 課 題	担 当 研 究 室
畑地かんがい地域における野菜、花き等の高収益モデル実証	盛岡 (岩手町)	13～15	(1)有機質資源の活用指針の作成 (2)効率の高い稲作・転作営農技術の確立 (3)土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	営農技術
水田を活用した持続的作付体系及び優良種苗の安定確保によるサトイモ産地強化の実証	北上 (北上市)	13～15	(1)根腐病対策を中心とした水田活用による持続型作付体系の実証 (2)優良種苗の現地選抜	野菜畑作 応用生物 病理昆虫
大規模ほ場整備地区におけるほ場畦畔の雑草抑制と景観形成技術確立	水沢 (胆沢町)	13～15	(1)町委託事業への参画による有望 GCP の検討 (2)有望 GCP の増殖管理技術の検討	水田作 生産工学
水田地帯における園芸生産の高度・安定化「いちご栽培における省力技術の導入による高度生産化」	一関 (花泉町)	13～15	(1)新品種導入に際する技術支援 (2)短日処理技術実証に係る技術支援 (3)導入技術に対する経営モデル確立	南部園芸
東磐井地区における園芸省力安定生産モデル経営の実証	千厩 (大東町)	13～15	(1)トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証確立	南部園芸
ほ場整備地区における園芸団地形成に向けた農業経営の確立	大船渡 (陸前高田市)	13～15	(1)農業経営モデルの分析・評価	農業経営
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野 (遠野市)	13～15	(1)ほうれんそう大型経営の栽培技術実証	野菜畑作 産地育成
沿岸中山間地域における花き周年生産モデルの確立	宮古 (宮古市)	13～15	(1)トルコギキョウの良品生産技術の指導 (2)スプレーギクの日長管理技術の指導 (3)オリエンタル系ゆりの良品生産技術の指導 (4)ストックの良品生産技術の指導 (5)花き周年栽培モデル体系の確立	花き
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普及型安定生産技術体系の確立	久慈 (普代村)	13～15	(1)野菜・緑肥を中心とした輪作体系の確立 (2)灌漑施設を利用した野菜安定栽培技術の確立 (3)新規開発畑における土壌管理・輪作マニュアルの策定 (4)経営感覚に優れた主業型農家の育成	やませ利用 農業経営 営農技術
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証	二戸 (一戸町)	12～14	(1)秋だしパンジー栽培技術の確立 (2)花壇苗周年生産技術の確立 (3)花き栽培施設を有効活用した山菜促成栽培の実証	産地育成

(4) 岩手県生物工学研究所との共同研究

課 題 名	担当研究室
いもち病抵抗性関連遺伝子を導入した水稻の耐病性評価	応用生物工学
DNA マーカーを用いた水稻特性検定法の確立	水稻育種 応用生物工学
りんどう病原ウイルス (CMV 等) の検出・診断技術の利用	応用生物工学
トマト黄化えそウイルス (TSWV) の検出・診断技術の確立及び利用	応用生物工学
アグロバクテリウム・リゾジェネス A4 菌を用いた矮化リンドウの特性評価	応用生物工学 花き
耐病性関連遺伝子を導入したりんごの糸状菌病抵抗性評価	応用生物工学
リンゴ根頭がんしゅ病菌の検出・診断技術の確立と利用	病理昆虫 応用生物工学
ピーマン病原ウイルス (PMMoV) の検出・診断技術及び系統解析技術の利用	応用生物工学
ナス科作物青枯病菌の検出・診断技術の利用	応用生物工学

(5) 大学との共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
カイコ及び野蚕からの新規機能性物質の利用開発	岩手大学	12～	カイコの抗カピ性物質や天蚕の休眠制御物質、天蚕フィブロインからの化粧水等の新機能性物質と関連化合物を農業生産場面で効率的に利用する方法と医療場面で有効に活用する方法を開発する。	病理昆虫
イネ・ゲノムシミュレータの開発	京都大学 岩手大学	13～15	(独)農業生物資源研究所を中心に組み込まれている「イネ・ゲノムシミュレータの開発」において、多地点品種比較試験を分担し、シミュレータ開発及び遺伝子・環境相互作用解析のためのデータを得る。	水稻育種

(6) AFR研究会

ア 研究会

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
花卉育種研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	花き 応用生物工学 産地育成
昆虫機能利用研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、岩手医大、生物工学研究所	10～	病理昆虫 病害虫防除課 営農技術
植物育種研究会	岩手大学農学部、教育学部、生物工学研究所、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター	10～	水稻育種
農作物ウイルス病診断防除研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	病理昆虫
機能性食品研究会A(雑穀)	岩手大学農学部、大学院連合農学研究科、工業技術センター、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、二戸農業、浄法寺農業、カナン牧場、(株)ミッシュェル、花巻起業化支援センター	10～	やませ利用
機能性食品研究会B(豆腐)	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター、黒川食品(株)、花巻起業化支援センター	10～	野菜畑作
農作業システム自動化研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	10～	生産工学
家畜人工授精技術促進研究会	岩手大学農学部、岩手県家畜人工授精士協会、岩手県農業研究センター畜産研究所	10～	家畜工学
乳牛の周産期疾患研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧、日本金葉工業	10～	家畜飼養
水稻栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	水田作 やませ利用
果樹栽培研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	果樹
リンドウ研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	応用生物工学
植物耐冷性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、生物工学研究所	12～	水稻育種 水田作
雑穀の病害虫に関する研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	12～	病害虫防除課 病理昆虫 営農技術
ホップの機能性研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	所長
有機質資源循環利用研究会	岩手大学農学部、工業技術センター、岩手県農業研究センター	12～	飼料生産 生産工学 土壌作物栄養
始原生殖細胞(PGCs)利用研究会	岩手大学農学部、岩手県農業研究センター畜産研究所、小岩井農牧	13～	家畜育種

名 称	構 成	研究期間	担当研究室
里地・里山生物多様性研究会	岩手大学人文社会科学部、県立博物館、(社)岩手県植物防疫協会、環境保健研究センター、岩手県農業研究センター	14～	環境保全 病理昆虫
硝酸性窒素動態研究会	岩手大学農学部、岩手県立大学総合政策学部、環境保健研究センター、農業普及技術課、岩手県農業研究センター	14～	環境保全 土壌作物栄養 専門技術員室
食品廃棄物の飼料化研究会	岩手大学農学部、東北農業研究センター、工業技術センター、岩手県農業研究センター-畜産研究所	14～	家畜育種 飼料生産

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場 所	内 容
14. 8. 2	農業研究センター	(1) AFR 協議会 現状評価、今後の活動予定、報告事項 (2) 成果報告会 60名出席 5成果を報告 (3) 交流会 25名出席
14.11.29	岩手大学	シンポジウム 「農業分野における産学官連携のあり方」 「イネの自然変異 - ポストゲノム時代の新たな研究資源 - 」

(7) その他の共同研究

課 題 名	相手方	研究期間	研 究 の 内 容	担当研究室
野菜の内部品質向上対策のための品質評価に関する研究	全農岩手県本部	13～15	(1) 野菜の内部品質評価のための簡易分析法開発及び成分変動要因の解析 (2) 化学分析による成分評価及び県産野菜の成分実態調査	保鮮流通技術
黒毛和種及び日本短角種における経済形質に関わるゲノム解析研究	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の半兄弟家系を作成し、DNA マーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、劣性遺伝病について、発病牛家系の DNA マーカーによる連鎖解析を行い、原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜工学
ダイオキシン類の植物における吸収移行特性の解明	農業環境技術研究所	14	(1) ウリ科作物中のダイオキシン類濃度の分析とリスク評価に関する研究 (2) ウリ科作物中のダイオキシン類の吸収移行に及ぼす栽培管理方法等の影響解析に関する研究	環境保全
降霜予測手法の開発	横河電子機器(株)	14～16	(1) 降霜現象を気象因子から解析し、降霜推定式を開発する。 (2) 降霜現象を客観的に自動でモニタリングする手法を開発する。	環境保全
重イオンビーム照射による新品種(水稲、タネ)の育成 (夢県土いわて創造研究事業) 可能性調査研究	(財)岩手生物工 学研究センター	14	(1) 重イオンビームにおける情報収集 (2) 重イオンビームの照射におけるスターチス及び水稲への供試条件の調査	応用生物学
食品製造過程における動植物残渣の有効利用技術に関する調査 (夢県土いわて創造研究事業) 可能性調査研究	工業技術センター 水産技術センター 岩手県食品産業 協議会	14	(1) 食品製造過程における動植物性残渣のリサイクル技術の抱える課題のリストアップ (2) 製造・加工業の再利用技術事例調査 (3) 残渣のリサイクル技術の課題解決に向けた開発研究の可能性調査	保鮮流通技術
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	(1) 植物、動物、微生物の生物遺伝資源及び DNA の相互交換	-

(8) その他産学官連携行事

名称	開催月日	場 所	内 容
産学官フォーラム in 東和	14.11.27	東和町	(1) 産学官連携強化支援機関の紹介（農研センターほか） (2) 企業講演会「企業の人づくり」盛岡地域職業訓練センター (3) 交流会
産学官フォーラム in 花巻	15. 1.17	花巻市	(1) 講演「岩手大学が取り組む産学官連携について」岩手大学長 (2) パネルディスカッション「花巻地域産業の将来像を語る」 (3) 交流会
産学官フォーラム in 滝沢	15. 2. 7	盛岡市	(1) 基調講演「産学連携による農業分野の地域振興」 (2) パネルディスカッション「産学官連携による地域振興」 (3) 各産業支援機関の紹介（農研センターほか） (4) 意見交換会

5 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
県南沿岸地域の小規模農業地域における地域農業再編モデルの策定	大船渡市	浜田川	企画経営情報部 農業経営研究室
奨励品種決定現地調査(水稲)	雫石町	上野	農産部 水田作研究室
〃	紫波町	星山	〃
〃	西根町	大更	〃
〃	花巻市	矢沢	〃
〃	沢内村	前郷	〃
〃	胆沢町	小山	〃
〃	江刺市	稲瀬	〃
〃	花泉町	花泉	〃
〃	千厩町	千厩	〃
〃	遠野市	青笹	〃
〃	山田町	豊間根	〃
〃	陸前高田市	竹駒町	〃
〃	種市町	宿戸	〃
〃	浄法寺町	浄法寺	〃
〃	紫波町	南日詰	〃
〃	一関市	巖美町	〃
水稲糯品種の高品質安定生産技術の確立 (糯新品種「岩南糯19号」の栽培法)	紫波町	南日詰	水田作研究室
〃	紫波町	平沢	〃
〃	紫波町	彦部	〃
県産米の品質・食味レベルアップ現地栽培実証 (純情米総合実証展示ほ)	前沢町	古城要害	水田作研究室
〃	一関市	中里	〃
〃	水沢市	佐倉河	〃
〃	江刺市	稲瀬	〃
〃	東和町	前田	〃
〃	花巻市	西宮野目	〃
〃	北上市	飯豊	〃
〃	胆沢町	北大畑	〃
〃	雫石町	西安庭	〃
〃	石鳥谷町	中寺林	〃
〃	西根町	田頭	〃
〃	金ヶ崎町	永栄林崎	〃
〃	矢巾町	東徳田	〃
〃	九戸村	荒屋	〃
〃	遠野市	青笹	〃
寒冷地北部におけるホールクroppサイレーヅ用イネの栽培実証 (21世紀プロ3系)	紫波町	片寄	水田作研究室、 飼料作物研究室
北上川流域地帯における水稲湛水点播直播機栽培技術の確立	花巻市	宮野目	水田作研究室 生産工学研究室 土壌作物栄養研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
大区画水田整備圃場における圃場畦畔の雑草抑制と景観形成技術の確立	胆沢町		水田作研究室 生産工学研究室
不良環境地帯向け水稻品種の育成	沢内村	高下	水稻育種研究室
ドレンレイヤー工法現地実証試験	花巻市	鍋倉	生産工学研究室
重機の走行がほ場整備後の土壌均一性に与える影響の解明	宮守村	宮守川上流	生産工学研究室
〃	江刺市	袖野	〃
〃	胆沢町	いさわ南部	〃
ロングマット水耕苗現地実証試験	北上市	滑田	生産工学研究室
〃	石鳥谷町	新堀	
麦・大豆立毛間播種栽培の現地実証	北上市	和賀町	生産工学研究室
ネギの省力機械化体系確立実証	花巻市	太田	生産工学研究室
J M 台木の現地適応性試験	二戸市		園芸畑作部 果樹研究室
〃	宮古市		〃
〃	矢巾町		〃
〃	江刺市		〃
〃	花泉町		〃
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市		果樹研究室
〃	宮古市		〃
〃	矢巾町		〃
〃	江刺市		〃
〃	花泉町		〃
食味本位リンゴ栽培体系化実証試験	紫波町		果樹研究室
麦類奨励品種決定現地調査	紫波町	水分	野菜畑作研究室
〃	東山町	長坂	〃
大豆奨励品種決定現地調査	前沢町	古城	野菜畑作研究室
〃	藤沢町	要害	〃
不耕起大豆の超省力安定栽培技術の確立	玉山村	門前寺	野菜畑作研究室
〃	北上市	相去	〃
はとむぎの優良品種選定現地試験	東和町	南川目	野菜畑作研究室
〃	衣川村	八地	〃
水田を活用した持続的体系及び優良種苗の確保によるサトイモ産地強化の実証	北上市	二子	野菜畑作研究室
雨よけほうれんそうの大型経営確立による産地拡大	遠野市	小友	野菜畑作研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
沿岸中山間における花き周年生産モデルの確立	宮古市	老木	花き研究室
りんどう品種育成に係る現地調査	石鳥谷町	北寺林	花き研究室
小ぎく品種育成に係る現地調査	北上市	江釣子	花き研究室
鉢物りんどうの栽培試験に係る現地調査	北上市	稲瀬	花き研究室
りんどうこぶ症の発生要因の解明	石鳥谷町	戸塚	花き研究室
水田地帯における園芸生産の高度安定化 「イチゴ栽培における省力技術導入による高度生産化」 東磐井地方における園芸省力安定生産モデル経営の実証 「トマト点滴かん水施肥栽培技術の実証」	花泉町	永井	南部園芸研究室
	大東町	大原	南部園芸研究室
有機農業栽培実態調査 (有機農産物生産条件の解明)	胆沢町	若菜	生産環境部 環境保全研究室
〃	矢巾町	広宮沢	〃
〃	松尾村	松尾	〃
水稻栽培における減農薬栽培の組立実証 (水稻の減農薬栽培技術の確立)	江刺市	稲瀬	環境保全研究室
リンゴ炭疽病の感染時期の検討および防除試験 (リンゴ炭疽病の発生予察技術の確立)	一関市	蔵美	病害虫部 病理昆虫研究室
リンドウ褐斑病の感染時期の検討および防除試験 (リンドウ病害虫防除体系の確立と実証)	花巻市	湯口	病理昆虫研究室
リンゴ紫紋羽病の防除試験 (リンゴ紫紋羽病の発生実態と新たな防除技術の開発)	江刺市	米里	病理昆虫研究室
〃	花泉町	金沢	〃
〃	岩泉町	乙茂	〃
〃	二戸市	米沢	〃
〃	久慈市	広野	〃
〃	藤沢町		〃
トマト青枯病防除試験 (なす科野菜青枯病の総合防除技術の確立)	江刺市	愛宕	病理昆虫研究室
複合交信攪乱剤利用りんご園における散布回数削減病害虫防除体系の確立と実証	江刺市	小倉沢	病理昆虫研究室
寒冷地北部におけるホールクroppサイレージ用イネの栽培実証	紫波町	志和	畜産研究所 飼料生産研究室
奥中山地域における液状コンポスト調製利用システムの確立	一戸町	奥中山	飼料生産研究室
北上山地における黒毛和種肥育素牛育成技術の現地実証	遠野市	貞任	外山畜産研究室
いわてっこの生育診断指標	岩手町	一方井	県北農業研究所 営農技術研究室
〃	一戸町	小鳥谷	〃
〃	軽米町	山内	〃
大規模普通畑作物の経営実証	軽米町	晴山	営農技術研究室
土壌水分予測に基づく効率的かん水技術の開発	岩手町	一方井	営農技術研究室
ほうれんそう収穫・調製機械の開発・改良	西根町	田頭	営農技術研究室

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 研 究 室
奥中山地域における液状コンポストの調製利用システムの確立	一戸町	奥中山	営農技術研究室
新肥料の実用化	軽米町	晴山	営農技術研究室
〃	軽米町	山内	〃
〃	九戸村	伊保内	〃
東北北部中山間畑作地帯におけるキャベツの環境保全型栽培技術の確立	西根町	上坊	営農技術研究室
ヒエ・アワの乾燥調製法	軽米町	軽米	営農技術研究室
県北地域の水稲栽培における有機質資材の化学肥料代替利用法の確立	軽米町	山内	営農技術研究室
畑地かんがい地域における野菜、花き等の高収益モデル実証	岩手町	一方井	営農技術研究室
ダイコンの品種選定	大野村	帯島	産地育成研究室
レタスの品種選定(予備試験)	一戸町	奥中山	産地育成研究室
県北中山間地域における花き品目導入による農業経営の確立実証	一戸町	小友	産地育成研究室
地域資源を活用した高付加価値農産物の生産・流通システムの確立	二戸市	上斗米	産地育成研究室
新肥料の実用化(リンドウ)	軽米町	山内	産地育成研究室
いわてっこの栽培法検討	久慈市	小久慈	やませ利用研究室
〃	遠野市	青笹	〃
ヒエの水田移植栽培実証	軽米町	軽米	やませ利用研究室
大規模畑作における輪作を基本とした園芸作物の普代型安定生産技術体系の確立	普代村	和野山	やませ利用研究室